

脱炭素・GREEN×EXPO・みどり環境・資源循環委員会記録  
【 速 報 版 】

令和8年3月12日開会

# 速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣告

- 大桑正貴委員長 これより委員会を開会いたします。

上着の着用は御自由に願います。

審査に入ります前に、委員の皆様を確認をさせていただきたいと思います。

予算第一特別委員会から審査委嘱された予算議案の審査につきましては、日程の都合上、常任委員会では質疑のみを行い、意見表明を行わない方法で審査をいたします。また、予算第一特別委員会委員長宛てに提出いたします審査委嘱報告書につきましては、主な質問項目を局別に記載することになっております。この報告書は委員長において取りまとめをし、提出をさせていただきますので、以上御了承願います。



◎ 市第76号議案、市第86号議案及び市第89号議案の審査、採決

- 大桑正貴委員長 それでは、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局関係の議題に入ります。

なお、当局の発言に際しては、着座のままをお願いいたします。

予算第一特別委員会から審査委嘱をされました市第76号議案関係部分、市第86号議案関係部分及び市第89号議案の3件を一括議題に供します。

市第76号議案 令和8年度横浜市一般会計予算（関係部分）

市第86号議案 令和8年度横浜市市街地開発事業費会計予算（関係部分）

市第89号議案 令和8年度横浜市風力発電事業費会計予算

- 大桑正貴委員長 議案についての説明は省略し、予算第一特別委員会における質問要旨について、当局より簡潔に説明を願います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 脱炭素・GREEN×EXPO 推進局でございます。どうぞよろしく願います。

それでは、お手元の資料に基づいて御説明いたします。

3月2日に行われました令和8年度予算第一特別委員会特別審査におきまして、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局関連の質問要旨について御説明をいたします。

令和8年度予算第一特別委員会質問要旨を御覧ください。

質問者は7名の方々と、質問順に立憲民主党無所属の会の麓理恵委員、日本維新の会無所属の会のいそべ尚哉委員、国民民主党の熊本ちひろ委員、日本共産党の古谷靖彦委員、自由民主党の増永純女委員、公明党の仁田昌寿委員、無所属の輿石かつ子委員でございます。

1ページにお進みください。

立憲民主党無所属の会の麓理恵委員の質問項目ですが、1の令和8年度予算につきまして、1項目の御質問と1件の御意見を、2の脱炭素につきまして、1ページから2ページにかけて記載のとおり、6項目の御質問と2件の御要望、1件の御意見を頂きました。3のGREEN×EXPO 2027につきまして、2ページから3ページにかけて記載のとおり、8項目の質問と3件の御要望、1件の御意見を頂きました。以上、3つ

の分野につきまして、15 項目の御質問と 5 件の御要望、3 件の御意見を頂きました。

4 ページにお進みください。

日本維新の会、失礼しました、日本維新の会無所属の会のいそべ尚哉委員の質問項目でございますが、1 の脱炭素と GREEN×EXPO を都市の変化につなげる戦略につきまして、2 項目の御質問と 1 件の御要望を、2 の脱炭素先行地域につきまして、2 項目の質問と 1 件の御要望を、3 の循環型都市への移行につきまして、4 項目の御質問と 1 件の御要望を頂きました。以上、3 つの分野につきまして、8 項目の質問と 3 件の御要望を頂きました。

5 ページにお進みください。

国民民主党の熊本ちひろ委員の質問項目でございます。1 の GREEN×EXPO 2027 を契機とした子供たちの学習につきまして、2 項目の御質問と 2 件の御要望を、2 の水素社会に向けた取組につきまして、2 項目の御質問と 1 件の御意見を、3 の家庭の廃食油の SAF へのリサイクルにつきまして、2 件の御質問と 1 件の御意見を頂きました。以上、3 つの分野につきまして、6 項目の御質問と 2 件の御要望、2 件の御意見を頂きました。

6 ページに進みください。

日本共産党の古谷靖彦委員の御質問項目でございます。1 の GREEN×EXPO 開催における懸念事項につきまして、6 ページから 7 ページにかけて記載のとおり、18 項目の御質問と 1 件の御意見を頂きました。

8 ページにお進みください。

自由民主党の増永純女委員の質問項目ですが、1 のペロブスカイト太陽電池の活用につきまして、3 項目の御質問と 1 件の御要望、2 のハマウイングにつきまして、3 項目の御質問と 1 件の御要望、3 の GREEN×EXPO 2027 につきまして、8 ページから 10 ページにかけて記載のとおり、16 項目の御質問と 8 件の御要望、1 件の御意見、4 の仮称旧上瀬谷通信施設公園の整備につきまして、3 項目の御質問と 1 件の御意見を、5 の GREEN×EXPO 2027 後の施設の活用につきまして、3 項目の御質問と 1 件の御要望を頂きました。以上、5 つの分野につきまして、28 項目の御質問と 11 件の御要望、2 件の御意見を頂きました。

11 ページにお進みください。

公明党の仁田昌寿委員の質問項目です。1 の太陽光パネルの導入促進とリサイクルにつきまして、3 項目の御質問と 1 件の御要望を、2 のカーボンリサイクルの推進につきまして、4 項目の御質問と 1 件の御要望を、3 の次世代型太陽電池活用推進事業につきまして、2 項目の御質問と 1 件の御要望を頂きました。

12 ページにお進みください。

4 の電気自動車用急速充電器の最適配置につきまして、3 項目の御質問と 1 件の御意見、5 の GREEN×EXPO 2027 のシャトルバス輸送につきまして、3 項目の御質問と 2 件の御要望を、6 の GREEN×EXPO 2027 とにぎわい・文化芸術創造都市施策の関わりにつきまして、2 項目の御質問と 1 件の御意見を頂きました。以上、6 つの分野につきまして、17 項目の御質問と 5 件の御要望、2 件の御意見を頂きました。

13 ページにお進みください。

無所属の興石かつ子委員の質問項目です。1 の GREEN×EXPO 2027 の各区における機運醸成の取組につきまして、2 項目の御質問と 3 件の御要望を、2 の旧上瀬谷通信施設地区の埋蔵文化財調査と近代の歴史のまちづくりの生かし方につきまして、2 項目の御質問を、2 件の御要望を頂きました。以上、2 つの分野につきまして、4 項目の御質問と 5 件の御要望を頂きました。

説明は以上です。御審査のほどどうぞよろしくお願いいたします。

- **大桑正貴委員長**   ありがとうございます。説明が終わりましたので質疑に入ります。
- **宇佐美さやか委員**   脱炭素の取組としては、予算概要を見ていくと、新規で地区の資源循環に、可視化を通じた資源循環の取組創出として、みなとみらい地区、21地区内で集積したデータに基づきというふうにあるのですが、これはどうやってデータを集めるための調査をするのかというのを、お伺いします。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長**   各施設に、今みなとみらいにいる事業者の皆様にどのようなものを購入し、マニフェストと言っているのですけれども、どのようなものをどれぐらいの量を捨てているかというデータを今もらっているところです。その全てを入れたものと、それから、特に出ていくものは詳細にもらって、それがどういうふうリサイクルされているかということ进行分析していく、そういった取組でございます。
- **宇佐美さやか委員**   企業さんはかなり協力をさせていただいて進めているとは思いますが、その可視化を支援するツールというのは、どういうものなのかお伺いします。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長**   シートみたいなものをつくりまして、そのシートに入力して、それが実際に目で見えるようにどれぐらいの量が、例えばプラが多いとか何が多いというものが一発で分かるように、Excelのようなもので打ち込んだら模式化されるように、そういったツールを今つくろうとしているところです。
- **宇佐美さやか委員**   つくろうとしている中で、得られたデータに基づいて関係者との、というふうにあるのですけれども、その関係者というのがみなとみらい地区の行政事業者さんということよろしいですか。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長**   はい。みなとみらいの事業者と連携しながら、あとリサイクルされるリサイクラーとも打合せをしながら、その先どうやっていくかということを検討していきたいと思っております。
- **宇佐美さやか委員**   この取組によってこういったものを期待しているのか、どういう効果を期待しているのかというのを伺います。
- **岡崎脱炭素社会移行推進部長**   多く出ているものがあって、例えば隣のビル、また隣の隣のビル等で多く出ているものがあれば、量が多ければリサイクルしやすいというものもございまして、それでエリア全体で見えるようにして、互いに補完し合ってリサイクルしていく、そういった流れをつくりたいと思っております。
- **宇佐美さやか委員**   脱炭素の取組というのは、見ていくと、今までどおりのことをやっていらっしゃるなというふうにちょっと受け止めて、新規でいうと今のところなのか。予算としては、EXPOと上瀬谷開発のほうほとんど占めていて、予算が本当に増えていると思うのですが、局として脱炭素の取組はこのままでいいというお考えなのでしょうか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長**   まず2030年のハーフカーボン、それから2050年ゼロカーボンに向けては、この脱炭素の取組を加速させてやっていかなければいけないと認識しております。そういった中で、これまで従来どおりだけということではなく、今のよう見える化をしながらさらなるサーキュラーを推進し、そして脱炭素につなげる取組ですとか、あと我々家庭系の排出が非常に特徴的に多いところで、そこをどうにかしようということで、今はY G r E P事業ですとか、新たにそういう事業を加速させながら、これからそういったところのアウトリーチを進めて後押しをしていこうという事業も、これは新たに進めておりますので、様々な施策を組み合わせながら進めていきたいと考えています。
- **宇佐美さやか委員**   いろいろ組み合わせてというふうにおっしゃったのですが、もっとやっぱり脱

炭素の取組を進めていくために、何かできることほかにないかというのを真剣に模索していただきたいと思  
います。やはり、上瀬谷開発の予算は、もう先ほど言ったようにどんどん増えている中で、周辺道路の改良  
は渋滞解消に資すると考えていますけれども、EXPO閉会後にできる物流地区ですとか観光地区へつなが  
る新たなインターチェンジですとか新たな交通の予算も便乗して記されていると。これはやっぱりEXPO  
の準備とどういう関係があるのかというふうにお伺いします。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** まず、この上瀬谷のまちづくりというものは、市政の根幹として長  
年米軍に接收されてきたということを踏まえて、地権者の皆様方の思いですとか地元の皆様方の期待です  
とか踏まえまして、しっかりと土地利用をしていこうということで、これはもう、まずGREEN×EXPOがあろう  
がなかろうが、しっかりと進めていくという基軸がございます。そういった中で、平和的な土地利用という  
象徴としてこのGREEN×EXPOを開催し、それがその後のまちづくりにつながっていく、つなげていく、レガ  
シーをつなげていくと、そういうことでこのGREEN×EXPOというものが一つ契機として行うものでございま  
す。

ですので、これらを相乗効果を出しながらまちづくりを進めていくと、そういった郊外部の活性化拠点を  
形成するに当たって、新たな交通、新たなインターというものが必要であるということで進めております。

- **宇佐美さやか委員** 平和的な土地利用というふうにおっしゃったのですけれども、平和的な土地利用が観  
光地区ですとかにぎわい地区でもうける、もうけを上げる方たちのためになっはいけないと思っていま  
す。市街地開発の事業費予算がEXPO後、閉会後のことなので、この新たなインターチェンジと新たな交  
通の整備は、何度も申しますけれども、やはりこの物流地区を運営する企業さんと観光にぎわい地区でやら  
れる事業者さんにしっかりと負担をしてもらいたいというふうに要望しますので、そこは改めて要望しておき  
ます。以上です。

- **大桑正貴委員長** 他に御発言もないようですので、審査委嘱されました予算議案の審査は終了いたします。

#### ◎ 寄附受納について

- **大桑正貴委員長** 次に、報告事項に入ります。

初めに、寄附受納についてを議題に供します。

当局の報告を求めます。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO推進局長** 寄附受納について御説明をいたします。

資料1を御覧ください。

1の地方創生応援税制、企業版ふるさと納税を活用した寄附でございますが、寄附者は1ページから3  
ページに記載している合計22社、受納金額及び受納日は資料のとおりでございます。受納目的は、いずれも  
GREEN×EXPO推進事業のためでございます。

3ページの下段を御覧ください。

2の一般寄附でございますが、寄附者は小杉静子様、受納金額及び受納日は資料のとおりでございます。  
受納目的は、GREEN×EXPO推進事業のためでございます。

説明は以上です。どうぞよろしく願いいたします。

- **大桑正貴委員長** 報告が終わりましたので質疑に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

- 大桑正貴委員長 特に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

次に、GREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況についてを議題に供します。

本件については、みどり観光局関係の同一件名の報告事項と関連する議題ですので、説明の都合上、2件を一括議題に供します。

この際、みどり観光局職員入室のため暫時休憩をとります。

休憩時刻 午前10時14分

(当 局 入 室)



再開時刻 午前10時17分

- 大桑正貴委員長 それでは、委員会を再開いたします。



◎ GREEN×EXPO 2027の開催に向けた取組状況について

- 大桑正貴委員長 当局の報告を求めます。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 それでは、GREEN×EXPO 2027 の開催に向けた取り組み状況について御説明いたします。

資料2を御覧ください。

1ページにお進みください。

本日は、4つの項目について御説明をいたします。

2ページにお進みください。

初めに、1、横浜市出店等の検討状況についてでございます。

3ページにお進みください。

(1) 出店位置についてでございます。図に示しましたとおり、会場の西側メインゲート近くのUrban GX Villageに、①といたしまして、建物空間を活用した発信拠点を、会場東側SATOYAMA Villageに、②といたしまして、フィールドを活用した活動拠点、この2つの拠点を設置いたします。

4ページにお進みください。

初めに、建物空間を活用した発信拠点について御説明をいたします。(2) コンセプト・外観イメージでございます。世界の明日を、みんなで開く。Circular City YOKOHAMAをコンセプトに掲げ、未来に向けて挑戦する市民、企業の皆様と共に、横浜が目指す未来のまち・暮らしを発信いたします。外観イメージパースのとおり、建物は自然と調和する木材を利用し、印象的な外観を構成いたします。また、会期後はレガシー材として、公共建築物等へ再利用をすることを考えております。

5ページにお進みください。

(3) 市民・企業の皆様と共につくる発信拠点でございます。33組56社の協賛企業の皆様やSTYLE PARTNERSをはじめとした市民の皆様とともに、展示する未来風景やスタッフユニフォームなどの拠点づくり、取組を進めております。

6ページにお進みください。

(4) 発信拠点の暑熱対策についてでございます。暑熱対策につきましては、非常に今回大切な要素だと

認識しております。協会とも連携をいたしまして、会場全体の暑熱対策を徹底するのはもちろんのことと  
ございまして、なお、発信拠点の屋外でも快適に過ごせる空間、夏場でも子供たちの笑顔が生まれる空間をつ  
くり上げてまいります。具体的には、オーニングや、ひさしによる日影づくり、あるいはミストの設置など  
の対策に加えまして、子供たちが水遊びできるスポット、これも設けてまいります。

7ページにお進みください。

(5) 大屋根リング材の活用についてです。大阪関西万博の大屋根リング材の一部を再利用してベンチ等  
を制作し、横浜市の循環型都市への移行に向けた象徴的な取組を進めます。また会期後は学校などの公共施  
設へ移設するなど、レガシーとして市民の皆様の記憶に残る活用方法を検討してまいります。

8ページにお進みください。

ここからは、フィールドを活用した活動拠点について御説明をいたします。(6) コンセプト及び構成で  
ございます。環境活動団体などが活躍する場をコンセプトといたしまして、図の左上から、①ウエルカム  
ガーデン、②みんなでつくるフィールド、③活動広場、④観察とあそびの森、⑤未来志向フィールド、この  
5つのエリアで構成をいたします。

9ページにお進みください。

(7) ウエルカムガーデンのイメージでございます。市内産の花苗等を活用いたしまして、圧倒的な華や  
かさとしさにより来場者をお迎えいたします。

10ページにお進みください。

(8) 会期前の参加プログラムでございます。環境活動団体の皆様を対象に、サステナブルな花壇づくり  
プログラムを実施いたします。植物に関する講習から、花壇の設計、植栽作業など、一連の花壇づくりに参  
加していただきます。募集期間等については記載のとおりでございます。

11ページにお進みください。

次に、2、市民等の参加の検討。取組状況についてでございます。

12ページにお進みください。

(1) 市催事のうち、横浜ウィークについてでございます。会期中に1週間程度の開催を予定してござい  
ます。横浜の魅力を生かした、ここでしか得られない体験を市民や来場者とともに作り、みんなで楽しむ  
スペシャルなウィークを会場全体で展開してまいります。

13ページにお進みください。

続いて、区民活動デーでございます。18区ごとの区民活動デーを実施する予定でございます。日頃から  
文化活動等をされている方々によるステージでの発表や、地産地消・区の特産品の展示、販売ブース等によ  
る出展など、区民の皆様が主体的に参加していただける機会を提供してまいります。

14ページにお進みください。

(2) ボランティア募集でございます。植物管理約2000人と運営約1万人のボランティアを4月30日ま  
で現在募集中でございます。また、右の緑色の部分でございますが、ここに記載のとおり、横浜市出展のボ  
ランティアにつきましても、7月頃から募集予定でございます。

15ページにお進みください。

(3) 未来を担う子供たちに向けた取組です。子供たちが地球規模の課題を自分ごととして捉え、新たな  
グリーン社会への意識を高めるきっかけとするため、GREEN×EXPOへの2つの招待事業を実施いたします。

まず、ア、学校招待教育プログラムです。事前の学びを経た上で校外学習等の一環などで来場をいたします。対象は市立の小・中学校、高等学校の児童・生徒約500校、時期は4月から6月までの平日、これが大体53日間ございますが、この間で調整をしておるところでございます。次に、イ、子供招待です。対象は、市内在住の満4歳から満18歳の方、時期は会期中いつでも1回入場可能といたします。

16ページにお進みください。

(4) STYLE PARTNERSの募集開始でございます。地球に優しいライフスタイルを実践する皆様の取組をSTYLEとして発信し、全市的なアクションに広げていくため、STYLE PARTNERSを立ち上げております。3月下旬から広く、これは追加ということにもなりますけれども、参加を呼びかけまして、パートナーの皆様とのEXPO会場内外における体験や発信を通じまして、グリーン社会の実現に向けたムーブメントをつくり、市民や企業の皆様の行動変容を加速してまいります。

17ページにお進みください。

市民等の参加取組事例をまとめております。①から④につきましては御説明したとおりでございます。その他の取組といたしまして、⑤GREEN×EXPO協会との共同事業でもございますが、市民参加共創プログラム、それから⑥GREEN×EXPO協会事業でございます。一般参加催事を実施する予定でございます。

18ページにお進みください。

続きまして、3、来場者輸送の取組状況についてでございます。

19ページにお進みください。

(1) 来場者輸送実施計画第2版についてですが、GREEN×EXPO協会が2月27日に公表いたしました。初版からの主な更新内容でございますが、1つ目、シャトルバス計画の進捗、2つ目パークアンドライド駐車場などの計画の進捗、3つ目、交通需要マネジメントの取組の進捗でございます。

①のシャトルバスでございますけれども、4駅からのシャトルバスに事前予約制を導入いたします。また、横浜駅、新横浜駅、空港等からの直行バスや都心臨海部と会場を結ぶバスにつきまして具体的な検討を進めるとともに、バス事業者にヒアリングを開始します。

20ページにお進みください。

②パークアンドライド駐車場等でございます。大和市内の商業施設内の駐車場、それから相模大野立体駐車場の2か所を確保いたしまして、会場までのシャトルバスを運行する予定でございます。また、会場駐車場等が予約でいっぱいの場合の補完といたしまして、離れた駅周辺のコインパーキングを御案内していくことにも取り組みます。

③交通需要マネジメントでございますが、第1回交通円滑化推進会議を令和7年12月23日に開催いたしました。会議では、関係者の連携強化と地元への丁寧な説明が不可欠であるなどの御意見を頂きました。

21ページにお進みください。

(2) 瀬谷駅から会場までの公共空間整備でございます。瀬谷駅北口の駅前広場の舗装再整備工事に着手をいたしました。また花緑による彩りやGREEN×EXPOが感じられる装飾を行うとともに、日陰づくりやミスト設置など、様々な暑さ対策に取り組みます。

22ページに進みください。

最後に、4、GREEN×EXPO協会による取組状況についてでございます。

23ページにお進みください。

(1) 気候変動・暑熱対策でございます。大阪・関西万博の状況も踏まえまして、現在協会と出展者、それから横浜市が連携をいたしまして、さらなる気候変動・暑熱対策を検討しているところでございます。表にありますとおり、日陰空間の創出や、夜間開園の全期間の実施、避雷施設の追加設置、ミストの設置、給水器等の設置、水場空間の創出など、こういったことを検討してございます。

24 ページにお進みください。

(2) 国際出展でございます。現在、参加目標国、国際機関数は 70 程度、ほぼ達成をしております。うち 17 各国と契約調印済みとなっております。下の枠内には公表準備が整いました 42 か国 3 国際機関を掲載していますので後ほど御覧ください。

25 ページにお進みください。

(3) 花・緑出展者でございます。花緑出展者などが一堂に会する、第 4 回 GREEN×EXPO 2027 花と緑の共創推進会議が開催されまして、10 者から屋外・屋内の出展内容の発表がございました。26 ページにかけまして 10 者の展示内容を掲載していますので、こちらにつきましては後ほど御覧ください。

27 ページにお進みください。

(4) 前売り入場チケットでございます。開催 1 年前の 3 月 19 日から GREEN×EXPO 2027 チケットサイトを通じまして販売を開始いたします。旅行代理店や各種プレイガイド等、チケット販売事業者などの販売も実施予定でございます。また、電子チケットのほか、紙チケット等も御用意する予定でございます。なお、個人版ふるさと納税の返礼品に前売り入場チケットを追加するよう現在調整中でございます。

説明は以上です。どうぞよろしく願いいたします。

- **大桑正貴委員長** ありがとうございます。報告が終わりましたので質疑に入ります。
- **鴨志田啓介委員** 御説明ありがとうございます。この後いっぱい聞いていきたいと思うのですが、まず冒頭、この GREEN×EXPO 2027 のコンテンツ出展が充実してきているのを確認できまして、とても楽しそうでわくわくしているところですが、その前提でちょっと伺いたいことなのですが、我が会派が前々からちょっと申し上げてきたことは、この GREEN×EXPO 2027 の象徴たる目玉コンテンツです。大阪・関西万博も私は通算 7 日行きましたが、パビリオンはほとんど混んでいたりと予約が取れないことがあり、ほとんど実は行けていませんでしたが満足感は高かったのです。私は大屋根リングがダイナミズムがあり、本当に日本最大の木造建築に心を奪われていたので、何も見られなくても大屋根リングを散歩したり眺めるだけでもよかったです。それが目玉コンテンツだと思います。

ここで GREEN×EXPO の目玉コンテンツ、これをまさに自信を持って来場者に見ていただきたいと思えます。これから目玉コンテンツが出てくるのか、それとも横浜出展が目玉コンテンツになっていく、その気概を見せるのか。これは両局長に伺いたいと思えます。お願いします。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、今委員からお話がありましたように、この目玉というものはやはり大切だと思っています。そういった目玉の作り方につきましては、大阪・関西万博と我々はちょっと違うのかなというふうには考えています。それは、我々はやはり環境をテーマとする GREEN×EXPO であるというところを存分に生かしながら、我々としてはサーキュラーという視点の中で新たなグリーン社会のメッセージを発信したい、そういったところから目玉を生み出したいと考えています。

その目玉につきましては、市民や企業の皆様と共に作り、そしてそれが象徴的なものになり、その奥深い関わりから醸し出す雰囲気、それからそれが意味する将来へのメッセージ、これをつくっていきたく

いうことで、今検討をしてしっかりと進めているところでございます。まだちょっと詳細は明かせませんけれども、検討中でございます。ぜひともそれがこの博覧会の目玉になる、横浜市が先導してその目玉づくりをできるよう取り組んでいきたいと考えています。

- **鈴木みどり環境局長** 折居局長と同じように、まだまだこれから積み上げるものというか、つくっていくところというのは大きいと思っております。ただ、我々みどり環境局のほうで担当しておりますフィールドを活用した拠点のほうにつきましては、これまでの緑化フェアからつながる 10 年間にわたるガーデンネットワークスの取組、里山ガーデンに象徴されるような取組であるとか、これまで続けてきたみどりアップ計画、こういったものが集結していくような、結実するような、そういう機会となると思っております。

それがどのように形として現れるのか、あるいは 192 日間の時間の過ごし方としてつくれるのかというのは中のプログラム次第というか、そういうところにも影響してくると思いますので、そういった中身の充実ということをこれからはしっかりと考えていきたいと思っております。そこは先ほど折居局長おっしゃったところと同じところでもありますけれども、市民の方、事業者の方とどういふふうと一緒につくっていくかというところがまさに大事だと思っておりますし、それがこの GREEN×EXPO が終わってからどういふふうにならと続いていくか、続けていくかということかとも思っておりますので、そういった視点も大事にしながらしつかりと中身を考えていきたいと思っております。

- **鴨志田啓介委員** 今両局長からこの GREEN×EXPO 2027 の壮大なテーマがあつて、それが来場者の皆様にしっかりと伝わるかどうかというところが、これが目玉コンテンツと言えるのではないかということだったと思うのですが、そういうストーリー、難しい話も様々あると思っておりますけれども、やはり楽しんでいただくということが大事だと思いますので、引き続きどうぞ御検討いただきたくお願い申し上げます。

続きまして、我が党、コンテンツも大変重要視しているのですが、最も我々がやはり危機感を抱いているのが来場者輸送の取組、もうこれをずっとやっていきたいぐらいに思っているところでございますけれども、この来場者輸送に関する点について幾つか伺ってきたいと思っております。シャトルバス計画については、4 駅からのシャトルバスに事前予約制を導入するとの説明がありましたが、事前予約制を導入する狙いについて村上理事に伺います。

- **村上担当理事** すみません、シャトルバスの発着駅におきます利用者の集中による混雑というものを抑制するというのと、あとその混雑が日常的に駅を御利用されている皆様へ影響を及ぼすことを避けるために、あらかじめ各駅からのシャトルバスの利用者を平準化できるようにということで、事前予約制の導入に至ったということでございます。さらに、シャトルバスに乗ろうと駅にいらっしゃったにもかかわらず待ち時間が非常に長かった、あるいは乗車できなかった、そういうことが発生しないようにという狙いもございます。

- **鴨志田啓介委員** 事前予約制は確実に予約できれば乗れるというメリットがありますが、電車のダイヤが乱れて、予約時間に間に合わなかったとか、あるいは予約が必要ということを知らずにシャトルバス乗り場まで来られてしまう方も出てくると思います。そこで、予約時間に間に合わなかった人や、予約をしないで来てしまった人への対応はどのように考えておられますか。

- **村上担当理事** まず、予約時間に間に合わなかった方への御対応でございますが、当日のオペレーションの工夫などによりまして、その後の、例えば予約の後の時間帯のバスに必ず御乗車いただけるように協会と調整を図っていきたいと考えてございます。また、シャトルバスの利用には、先ほど予約をしないで来て

しまった方ということにつながるのですが、シャトルバスの利用には予約は必ず必要ということ、周知を徹底していくことがまず大事だと思っておりますが、それでもやはり予約をされないで来られた方はいらっしゃると思いますので、そういう方に対しましては、係員から御本人に対してその場で予約をしていただくように促しながら、予約された便に御乗車いただくように案内するという対応を協会の方で検討していると承知しております。

- **鴨志田啓介委員** この事前予約制を導入するという事は、予約のシステムというものも検討されているかと思えます。大阪・関西万博ではスマホで予約するスタイルだったと思えます。これはKANSAI MaaSということで、そのシステムに乗った大阪・関西万博の予約システムだったかと思うのですが、我々関西に住んでいないので使いにくかったなという印象だったのですが、GREEN×EXPOではどのような予約システムになるのか伺います。
- **村上担当理事** やはり、予約される方、来場される方が非常に分かりやすく予約をしやすいというシステム構築はとても大事だと考えてございます。この予約システムについては、GREEN×EXPO協会のほうで検討を進めているところだと思いますけれども、スマートフォンですとか、あとパソコンなど、オンラインで予約していただくようになるものと聞いてございます。あと、スマートフォンなどで、具体的には、御乗車可能な予約枠をお示して、その中から希望する日にちと時間を選んで御乗車いただく形になると思います。また、間違いがないように、当日、シャトルバス乗り場の待機スペースにおいて、係員または機械により予約確認をするという予定というふうに承知しております。
- **鴨志田啓介委員** GREEN×EXPOは4駅からのシャトルバスが主要な交通手段となります。もし予約システムが使いにくいものになってしまうと、来場者数にも影響が出かねません。システムの詳細は協会のほうで検討されていると思いますが、使いやすいシステムとなるよう市のほうでも確認していただくようお願いいたします。

また、滞留場所も重要であり、例えば十日市場駅では、シャトルバス乗り場となる北口交通広場の歩行空間が滞留場所となるようですが、混雑に応じて南口の広場の活用も検討していると聞いています。待機列の暑熱対策や、日常利用者との錯綜、安全確保等についてしっかり検討いただくようお願いいたします。

また、横浜駅や新横浜駅などからの直行バスについても伺います。バス会社へのヒアリングも始まったことで検討が徐々に進捗しており少し安心しましたが、料金設定の水準やバス乗り場の場所など具体的な検討状況について伺います。
- **村上担当理事** 横浜駅は巨大なターミナル駅、新横浜は主に新幹線利用者の方がEXPO会場にいらっしゃると思います。ただ、一方で横浜駅とか新横浜駅は日常でお使いの方もたくさんいらっしゃると思います。そのためEXPOに来られる方、あとは日常使われている方、それぞれが混乱を生じないように分かりやすく、なおかつ乗降しやすい場所というものを選定していきたいと考えてございます。また、料金設定につきましても、乗車場所から会場までの運行距離ですとか、あと時間などを踏まえて、運行主体のほうで定めていくことになるかと考えてございます。その際に、利用者にとりまして過度な負担にならないように、しっかり我々も調整をしていきたいと考えております。
- **鴨志田啓介委員** ターミナル駅からの直行バスは、来場者の利便性向上の観点からぜひ実現していただきたいと思えます。我が党としても以前から申し上げてきたところでございます。利便性が高い交通手段となるよう、引き続き積極的な検討をお願いします。

次に、自家用車の来場について伺います。コインパーキングの活用について御説明がありました。会場駐車場やパークアンドライド駐車場は事前予約制を導入するとのことですが、コインパーキングは予約制になるのか、予約制でない場合、もし満車で止められなかった場合どうするのか伺います。

- **村上担当理事** まず、自家用車、コインパーキングを利用される方は自家用車前提になると思います。自家用車でEXPO会場にお越しいただく方につきましては、会場の駐車場、またはパークアンドライド駐車場で、その駐車需要を賄うのが基本的な考えてございます。希望する日時にその両方が予約でいっぱいになった場合でも来場していただく可能性を少しでもお残しするために、今回コインパーキングとの連携というものが打ち出されたものと認識してございます。提携しているコインパーキングの情報につきましては、予約がいっぱいだったときに限りましてウェブ等でお知らせする予定でございます。

ただし、コインパーキングでの予約というものは、ちょっと残念ながら想定してございません。もし満車となった場合にはウェブ上で確認いただいて、ほかの提携駐車場に止めていただくような形になると考えてございます。

- **鴨志田啓介委員** 駅前のコインパーキングは地域の方が電車に乗るために、あるいは駅前での用事を済ませるために日常的に使っているものと思います。そのような場所にGREEN×EXPOの来場者を御案内するということになりますので、地域へ少なからず影響が出るのではないかと心配しています。対象の駅には横浜市外の駅も含まれています。市外の方にこういった情報が届いているのかも気になっています。地域の皆さんは、来場車両の増加により道路混雑を心配されると思います。コインパーキングが出現することになると、おっしゃっていた生活道路流入対策との矛盾も生じてしまうのかなと思います。コインパーキングを探して右往左往するという状況は多分出てくると思いますから、ここと生活道路流入対策、本当に結実してやっていただきたいと思うのですけれども、そこで、コインパーキングについては市外のエリアも含め、地域へなるべく影響を与えないような形となるよう調整すべきと考えますが、いかがですか。

- **村上担当理事** 今まさに委員がおっしゃっていただいたように、コインパーキングの御利用の皆様、それから日常使いの方々が、かえってコインパーキングを使えなくなってしまうという事態が生じないようにとか、あとは生活道路との影響とか、これはとても大事な視点だと思っております。そのため、我々としては、ふだん利用が少ないコインパーキングを案内するなど、地域の皆様に御負担をおかけしないように、協会としっかり連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

- **鴨志田啓介委員** なかなか難しいと思いますけれども、ぜひよろしく願いいたします。

会場駐車場についても伺います。会場駐車場については事前予約制ですが、入場ゲートの数は決まっております。一度に入庫できる車両数は絞られることから、例えば開園直前に駐車場を利用する車が集中すると、処理しきれず道路にまで影響が及んでしまうことを心配しています。私は以前から、会場駐車場の入庫開始時間の前倒しについて提案してきました。開園より相当早くから入庫していただくことで分散化が図れるとともに、来場者にとっても交通量の少ない時間にスムーズに会場に到着できるというメリットがあると思います。そこで、入庫開始時間の前倒しについて検討状況を伺います。

- **村上担当理事** これは、我々としましても、委員御指摘のとおり入庫の開始の時間の前倒しにつきましては、おっしゃっていただいたように需要の平準化も図れますし、なおかつ駐車場へのスムーズな入庫というものも可能になると考えてございますので、引き続き我々としましても協会と調整を図っていききたいと思っております。

- 鴨志田啓介委員 前向きな検討どうぞよろしくお願いいたします。

そして、本日の資料にありませんが、今回の第2版で示された東名高速道路横浜町田インターチェンジの加速車線、減速車線の延伸についても伺います。図面を見ると、東名高速道路の十日市場付近から県道瀬谷柏尾道路付近までの下り線について対策が行われる予定だと見てとれますが、対策の概要と期待される効果について伺います。

- 村上担当理事 資料がなくて大変恐縮でございますが、口頭で御説明申し上げます。

このインターチェンジにつきましては、東名高速道路の下り線の横浜町田インター付近から大和トンネル付近、これは通常、日頃かなり慢性的な渋滞が発生している場所でございます。そのため、このEXPOの開催に伴って、横浜町田インター付近の減速車線、それと加速車線を延ばすことによりまして、この渋滞解消を図っていければと考えてございます。期待される効果としましては、横浜町田インターを利用してEXPOに来場される車両の所要時間の減少につながるものと考えております。

- 鴨志田啓介委員 私は、かねてより、通常時でも混雑が今常態化しているこの東名高速道路、横浜町田IC周辺に、EXPOの来場車両が加わることで渋滞がさらに激化し、その結果渋滞を避けようとした来場者の車両が手前の横浜青葉ICで降り、国道246号線や環状4号線へ流入し周辺道路の混雑を招くおそれがあると指摘してきました。今回この対策が示されたことで、東京方面からの来場車両を東名高速道路上で処理し、横浜町田ICから会場へと徹底して誘導するという考え方がより明確になったものと受け止めております。この渋滞対策は本市の一般道への対策でもあると考えています。しかし、開幕まであと1年しかありませんが、工事はEXPOの開幕に間に合うのか伺います。

- 村上担当理事 委員おっしゃるとおり、環状4号線をはじめとする横浜市の道路の混雑緩和ですとか、この安全確保につながるような取組になるというふうに我々確信してございます。当然ながらEXPOの開幕に間に合うように、これは実際に、事業主体はNEXCO中日本になるのですが、進捗の確認を行いながら、NEXCO中日本と連携して取り組んでいきたいと考えております。

- 鴨志田啓介委員 よろしく申し上げます。GREEN×EXPOの開幕までに確実に実行していただくよう、NEXCO中日本に強く求めていただくよう、横浜市としても協力できるところはしっかりと協力していただくようお願いします。

来場者輸送について最後に一点要望でございます。EXPO会場の周辺には、要介護の高齢者が通う通所介護や通所リハビリ施設が複数あります。会場周辺が渋滞し送迎の遅延が発生すること、介護者御本人やその御家族にも御迷惑がかかる可能性があります。GREEN×EXPOが開催されることでこうした方々に迷惑のかからない対応をしっかりと実施していただくようお願いします。

続いては暑熱対策、これも重要でございます。博覧会は3月から9月の6か月間ですが、最近では5月頃から暑く、9月までほとんどの期間で暑さ対策が必要となっております。様々な暑さ対策を考えているようですが、この暑さ対策について万全を期す必要があると考えるが、その認識を局長に伺います。

- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 暑熱対策につきましては、私も最重要な課題であると認識しております。我々横浜市はもちろんのことながらですが、EXPO協会、こちらと連携をしまして、しっかりと取り組んでいけるように進めていきたいと思っております。また、会場内だけではなくて、シャトルバスの発着場、あるいはゲートの外といいますか、ゲートの前、待機列、あるいは会場内の歩行者空間、様々なありとあらゆる場所で対策が必要だと認識しております。引き続き協会とも連携をしながら、しっかりと取り組んでまい

ります。

- **鴨志田啓介委員** 資料を見させていただくと、樹木等の木陰のスペースだとかテントというかターフというか、その下のお休みどころということだと思いますので、大阪・関西万博でもクールスポットというか、がっつと冷やすみたいなの、あとはEVバスとか水素燃料バスもクーラーを効かせて、そこでもう、そこに入れば、わぁ涼しい、冷たいという感覚が、そこで休憩できるというところがあったと思いますが、それは、検討はいかがでしょうか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** そういった、委員に今おっしゃっていただいた取組につきましても、協会と一つ一つこういうことができるかというところを今詰めているところでございます。
- **鴨志田啓介委員** 暑さ対策、博覧会の成功の鍵なので、ぜひハード・ソフト両面での追加対策をお願いします。今回全期間21時30分まで開園にしたというのは、昼間の暑い時間の滞留を夕方以降の比較的涼しい時間帯にシフトするのでよい対策になると思います。一方で、夜の時間帯を楽しんでもらう演出が必要になりますが、この夜の時間帯を楽しんでもらう演出については、どのようなことを考えているのか伺います。
- **五十嵐担当理事** 委員御指摘のように通期の夜間開園になっておりますので、夜の楽しみ方もまた一つ重要な目玉コンテンツになると考えております。今、博覧会協会のほうにおきましていわゆるイルミネーション、それから著名なデザイナーによるデジタルサイネージ、それから各ガーデンや出展物に対して、それぞれの色を引き出すような、これあまり国内で行われていないのですけれども、そういったライティング、そういったものを組み合わせながら、会場全域で夜のお楽しみを提供できるような形で検討していると伺っております。市としてもしっかりと協力していきたいと考えております。
- **鴨志田啓介委員** 東南アジアなんかも、その辺りのテーマパークも、昼間は開かないで夕方から開けるみたいでして、それでその時間、涼しい時間楽しんでいただくということでもございまして、日本も大変暑くなってきましたので、この夜の時間帯を楽しんでもらうということは非常に重要かと思っておりますので、魅力あるものをGREEN×EXPOでも見せていただきたいと思います。要望でございます。

次に、GREEN×EXPOの呼称についても伺います。令和7年9月に開催した脱炭素・GREEN×EXPO推進・みどり環境・資源循環委員会において、開催地が横浜であることを略称や広報の中でより強調していく必要があると申し上げました。間もなく開催1年前となりますが、全国的には横浜でのEXPO開催が十分に知れ渡っていない中、どのように対応していくのか気になります。今後、横浜が開催地であることをどのように周知していくのか副市長に伺います。
- **平原副市長** 大阪・関西万博の期間中から、次の万博は横浜でというキャッチコピーを使いながらPRはしてきましたが、御指摘のとおり、もう少し盛り上げていかなきゃいけないという気持ちは持っております。来週にもう開幕1年前を迎えるタイミングになってまいりましたので、さらに横浜で開催することを知っていただく必要があるかなと思っております。正式略称をGREEN×EXPO 2027としておりますが、これは変えるつもりはございませんけれども、横浜ということを明確にするために略称を考えたいと思っております。横浜グリーンエキスポという略称をこれから使っていきたいなというふうに、ようやく協会とも調整ができましたので、横浜グリーンエキスポを使いながら、横浜で開催されることを全国に発信していきたいと考えております。
- **鴨志田啓介委員** 副市長ありがとうございます。横浜グリーンエキスポというのは、漢字・片仮名なのか、漢字・英語なのかってちょっと教えてください。

- 平原副市長 横浜は漢字で、グリーンエキスポは片仮名で、縦書きにも対応できるように、アルファベットだとなかなか縦書きの場合は見にくいので、と今は考えています。いろいろ工夫することも出てくるかもしれませんが、今は一応そういうことで考えています。
- 鴨志田啓介委員 ありがとうございます。ただ、副市長、今、グリーンエキスポとおっしゃったと思いますが、エキスポだと思うのですけれども、これは確認ですけれども、ちゃんと片仮名はエキスポですよ。
- 平原副市長 すみません、私の読み間違いでございまして、エキスポでございます。大変失礼しました。
- 鴨志田啓介委員 確認できましてありがとうございます。

そして、最近私XでいろいろGREEN×EXPOの広報、宣伝しているのですけれども、大阪の方々からいろいろコメントを頂きまして、大阪のほうは今トゥンクトゥンクがはやっていると自負をされておりました。というのは、ミyakミyakが大変人気で、ミyakミyakの人気とともにトゥンクトゥンクが引っ張り上げられていると。なので、横浜さんもうちょっと頑張ったほうがいいよと、大阪のほうは今、GREEN×EXPO盛り上がっているからというコメントも頂くぐらいなので、これは、やはりトゥンクトゥンク、横浜でやるGREEN×EXPOのマスコットキャラクターだということは、本当にこれ負けちゃいけないと思いますので、機運醸成という意味では、本当に横浜が一番頑張っていたかかないといけないところでございますので、ぜひ頑張ってください。よろしくお祈りします。

ここまで来場者輸送の取組、熱対策、呼称など様々伺いましたが、本日の議論を踏まえ、引き続き開幕に向けた準備をしっかり進めていただくことをお願いし、質問を終わります。

- 宇佐美さやか委員 先ほど目玉というさっきの委員のお話もあつたのですけれども、EXPO全体の企画として、地球温暖化に起因する気候変動によって地球規模の環境破壊が進んでいる深刻な事態を、やっぱりこういう現実を来場して下さった方にどうやって伝えていくのかというのが本当に大事になってくると思うのです。国ですとか地方自治体とか、市民とか企業、それぞれ何をすべきかをやっぱり示す必要があると思うのですけれども、そういう企画になるのかという、それが目玉になると思うのですけれども、伺います。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 委員御指摘のとおり、我々は、まずは今のこの地球の状態というのが危機であるというところをしっかりと来場者の皆様方には体感いただくといえますか、しっかり認識をいただけるような仕掛け、仕組みにしていきたいと思っています。  
その上で、それを今後どうしたらいいのか、どういう生き方をしたらいいのか、どういう行動をしたらいいのか、どういう暮らしをしたらいいのか、これをある程度提示といえますか、いろいろな企業の皆様方の最新技術ですとか、共に創る体験、体感を通じまして自分ごととして捉えていただける、こういった一連のストーリーを展開していきたいと考えています。
- 宇佐美さやか委員 そういうストーリーをつくっていくための2の(1)の横浜ウィークですとか、区民活動デーというのだと思うのですけれども、これを、文化とかも入ってきていて、何を目指してのステージの発表なのかとか、何をみんなで作るのかという、そういうものがなかなか見えてきそうで見えてこないような気がしていて、これで、ただ楽しかったというふうに終わってしまつては、やっぱりこの意味がないと思うのですけれども、このステージ発表とかというのは何を狙っているのでしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 ステージの中でどういうことを行うかという具体的な検討といえますか、具体的なメニューまでは、まだこれからの検討になりますけれども、イメージ、概念といたしましては、やはり日頃から区民の皆様方が地域で活動されている、これは環境行動もございまして、活動もありま

すし、そうではなくて、そこにもつながるとは思うのですけれども、いわゆる文化的な活動をされている方、様々な方々がいらっしやると思います。こういった取組が連動、連結することによって、やはりこれから新たなグリーン社会というものをつくる上での大きな活力になると思っています。

ですので、相乗効果も新たに生み出すということも期待をしながら、そのメニューを今考えている、考えていくところでございます。

○ **宇佐美さやか委員** いろいろなものを取り入れていって、相乗効果というふうになる、それがばらばらになってしまっただけではもったいないと思って伺ったのですけれども、(2)の建物空間を活用した拠点というのは、建物を2棟建てるということが示されていて、このパースでは完全に別棟になっているように見えるのですけれども、これは別々のテーマを2つの棟で示すという、実施するということでよろしいですか。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず2棟それぞれ1棟、2棟という形で立てて、そこを廊下といいますか、つなぐという、これはハード的な話なのですけれども、中のコンテンツといいますかテーマとしましては別々でございまして、1つは企業の皆様方33社の方々から協賛をいただいて、これからその新たなグリーン社会に向けた新技術ですとかそういったものを活用して、いろいろと来場者の皆様方に体感をしていただくというのが一つの館です。

もう一つのほうは、サーキュラー都市として、しっかり市民や企業の皆様の参加型でいろいろなものをつくり上げたり、そこで活動をして自分事化していくと、そういった体験をする館ということで、それぞれ役割を持たせながら運営していきたいと考えています。

○ **宇佐美さやか委員** 初めて今これをお聞きして、1か所は企業さんの新しい技術を見て、こういうものもあるのだと市民の皆さんに知っていただくという、もう一つはそれを体験、その新技術を体験できるということとはまた別になるのですか。すみません、ちょっとイメージが私ができなくて。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まだ中身については検討中でございますので、全て詳細なところでは煮詰まっておりますけれども、先ほど私申しましたように、そういった新たな技術、それから、いわゆる市民や企業の皆さんの参加によってつくり上げるという体験、体感、そういったものを、それぞれの役割を持たせながらなのですが、それがお互い組み合わさって、最終的にはどういう暮らしをしていけばいいのか、あるいは将来の未来の横浜の姿はどのようなだろう、そういったことを感じ取れるような形で仕上げたいという状況です。

○ **宇佐美さやか委員** 自分でもできることを知っていただいて、十分、あした、帰ってからの行動変容につながるという思いだという受け止めでよろしいですか。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 最終的には行動変容につながるような形にしたいと考えています。

○ **宇佐美さやか委員** 建物空間を活用した拠点で使われた建材が、4ページだと思うのですけれども、閉会後にはこれが資材として公共建築物に再利用というふうにかかれているのですけれども、例えばどういうものになるのかというのを伺います。

○ **谷口GREEN×EXPO推進部担当部長** 御質問ありがとうございます。今回の横浜グリーンエキスポで建築される建物につきましては、リユース、リサイクル、そういった観点で活用していくということが協会のほうで定めております。横浜市はこの建物につきましても、そういったリユース、リサイクルの視点で活用していくことを考えてございまして、具体的には、私ども公共建築物、横浜市多く持っておりますので、例えば今パースであります外装の木材などを学校などの公共施設の、例えば内装材に活用するなど、そういったこ

とを今検討しております。

- 宇佐美さやか委員 事前にお話聞いたら公園のトイレとかの壁にも使いたいと伺ったのですけれども、それは違うのですか。公共施設等という、公園のトイレとかにも使えますというふうに、何となく伺ったのですけれども、私の勘違いですか。
- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 今後の検討になるかと思います。そういったところも検討の視野に入れていければと思っております。
- 宇佐美さやか委員 せっかく使えるものはやっぱり使っていくという、そういうものが残っていくという意味でもいいかと思えます。先ほど来から出ている暑熱対策で、ごめんなさい、いっぱい飛んじやうのですけれども、水遊び場を設けるというふうに示されていて、ちょっと楽しそうな絵が描かれているのですけれども、水遊びをするというふうになると更衣室がないと遊んでもらえないんじゃないかと思うのですけれども、更衣室は建てる予定でしょうか。
- 折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長 様々な付随する設備ですとか、今委員がおっしゃった更衣室ですとか、そういったものについては、これからどこにどういうふうにする機能を持たせるのか、あるいは代替として別の機能を持たせるのかは、これから検討です。
- 宇佐美さやか委員 せっかく遊んでもらえるようにとつくったのに、この後ぬれるからやめなさいよと言われたんじやかわいそうだなと思ったので、そういう施設はやっぱりどこかに建てていただきたいと思えます。  
あと、(5)の大屋根リングは、これは購入するものなのかというのを伺いたいのですけれども。
- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 こちらのリング材につきましては、大阪の博覧会協会が事業として今行って、解体を行っているものになります。現在調整しているものにつきましては、無償譲渡を前提に調整をしております。
- 宇佐美さやか委員 これ無償で頂くというふうになったとしたら、量というのですか、何と表現すれば、どれぐらいを持ってくるという。
- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 現在大阪の博覧会協会と調整させていただいている量につきましては、大体90平方メートル、立方メートル、すみません、90立方メートルとなつてございまして、部材としては柱とかはりになりますので、固まりというよりは細長い部材で参ります。量的には90立方メートルというのが、単純に計算しますと、5メートル掛ける5メートルの大きさに4メートル積み上げたようなボリュームになりますが、先ほどお話ししたように柱とかはりですので、そういった積み方にはなかなかならないものになります。
- 宇佐美さやか委員 聞いておいてすみません、どれぐらいなのかちょっとイメージができないのですけれども、運んでくるのが物すごく大変だなというふうに想像つくのですけれども、輸送費というのは、どこが負担するのでしょうか。
- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 輸送費、今回解体は大阪の博覧会の現場で行われておりまして、大阪の博覧会協会のほうで、その解体した材を今倉庫に保管をしております。そこに横浜市のほうで取りに行くという形になりますので、大阪まで取りに行つて横浜に持ってくる、そういった費用については横浜市のほうで負担することになります。
- 宇佐美さやか委員 結構な費用になるんじゃないかと思うのですけれども、この大屋根リングも再利用す

るというふうに書かれて、再々利用となるのですか、するというふうになっているのですけれども、その仕方というのはどういうものになるのか伺います。

- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 先ほど90立方メートルの木材というお話をさせていただきました。こちらについて、今利用について検討をさせていただいてございます。実際の利用については、その利用の目的であったり、または配置なども検討していかないといけないということで、今現在博覧会協会、会場の中で、例えばベンチなどで広く皆さんに使っていただけるような設置ができないかとか、そういった検討を今進めているところでございます。
- 宇佐美さやか委員 会場内ということは、その後の防災公園でも使っていくということで考えてよろしいですか。
- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長 そういった、その後の防災公園での利用というのも考えられると思いますし、また学校、また公共施設などのベンチとか、そういった使い方も検討していきたいと考えています。
- 宇佐美さやか委員 先ほども公共施設というふうにも、公園のほうでも使う、公園のベンチになるとかというふうにも伺ったのですけれども、結構な量なのだろうというイメージだけはできたのですけれども、これからみどり環境局さんでも公園の整備とかも進んでいきますし、動物園の整備も進められると思うのですけれども、せっかくだからそういったところにも使ってもいいんじゃないかなと思うのですけれども、みどり環境局さんとしては、この大屋根リングの再利用、再々利用というのは考えていらっしゃるのでしょうか。
- 鈴木みどり環境局長 全体としてどういう調整がされるか、再利用にどこが効果的というか象徴というか、レガシーとして生きるかという視点での検討だと思いますので、もちろん全市的な視点で捉える中で、公園であるとか動物園というところが対象になるようであれば、それをしっかりと対応していきたいと思っております。
- 大桑正貴委員長 少々お待ちください。質疑の途中ではありますが、平原副市長が他の委員会より出席要請がありましたのでここで退出されますが、宇佐美委員よろしいですか。
- 宇佐美さやか委員 はい。
- 大桑正貴委員長 副市長に特に。
- 宇佐美さやか委員 はい。寂しくなります。
- 大桑正貴委員長 では、審査の状況に――、後ほどまた戻っていらっしゃることもあると思いますので、ぜひ引き続き。御了承願います。よろしく願います。
- 平原副市長 すみません、失礼します。
- 大桑正貴委員長 それでは質疑を続行いたします。
- 宇佐美さやか委員 すみません。どこまで行ったかしら。公園での再利用も検討していただけるということ、せっかく持ってきたので使ってあげないとかわいそうだなと思いますので、そこは検討いただきたいと思えます。

飛ぶのですけれども、輸送計画第2版が出まして、初版との主な変更点3点示されたと思うのですけれども、ほかに変更された点というのを伺いしようと思って、差異を分かるものを下さいと言ったのですが、私の手元に届かなかったのですけれども、差異はほかにあるのかというのを伺いたいのですけれども。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 今回輸送計画を見直したということで、第2版につきましては、主に

書いてある内容プラスアルファでいきますと、今回夜間開催が全日になったということで、来場されるお客さんの数をまず平日80日の部分を見直したりしております。それが4万7000人から5万人になったと、そういう見直しを元に、ベース全部計画を見直しているところでございます。

あとは、ここに書いていない内容でいきますと、三ツ境のシャトルバス乗り場とか、具体的に地元交渉とかバス事業者と調整しましてターミナルの位置を決めたとか、そういう細かいところの変更になっているところでございまして、もし概要でよろしければ、また別途御説明に伺えればと思っております。

- **宇佐美さやか委員** はい。あとでいただければと思います。すみません。私がなかなか差異が見つけれずにいたものですから下さいとお伝えしたのですけれども、現地の周辺、会場周辺での交通需要とかの調査は実施していると思うのですけれども、その中から出た課題というものはしっかりここに盛り込まれているという認識でよろしいですか。
  - **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 現時点で今考えられることについて第2版として取りまとめたところございまして、引き続きこれにつきましては、課題が出てくれば、また地元とかお話をしていますので、その中で課題が出てくればまた第3版とか更新していくような形で考えているところでございます。
  - **宇佐美さやか委員** 現地調査とか実証実験というのですか、されていると思うのですけれども、この間何回ぐらいされたんでしょうか。
  - **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 例えば、シャトルバスが瀬谷駅から出ていくときに、どのぐらいのサイクルで回れるのかとか、左折で出ていく関係がございますので、歩行者とどれだけクロスしてもどれだけ出せるのかとか。そういう検討とか行っているところでございます。また、引き続きデータの解析のほうとかも行ってございまして、ここに来る車はどこから来るのかとか、そういう予測をやりながら、今後TDMということをやっていきますんで、そこで——、難しいあれですすみません、TDMということやっていきますので、そこに対してどういう周知を行っていくとか、そういう検討を進めているところでございます。
  - **宇佐美さやか委員** 地元の住民の皆さんとかには初版で移動時間の変更などもお願いするというようなことも考えているとおっしゃっていたのですけれども、そちらも初版、第2版にも載っていたのか私がちょっと見つけられなかったのですけれども、載っていらっしゃるでしょうか。
  - **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** すみません、詳しく第2版には概要を記載しているところでございまして、地元の方への皆様に周知等につきましては、今後、来年度以降、こういう形でこの時間混むようすとか、この日に混むよという情報を出しながら協力いただく形を考えているところでございます。
  - **宇佐美さやか委員** イベントをやるに当たって、地域の住民の皆さんには御負担をおかけすると思うのですけれども、やっぱりそれが大分負担になって、家にいなきゃいけないのだと思われるようなこととかないようにしてほしいとは思っているのですけれども、移動時間の変更というふうをお願いしてしまうというのは、やっぱりよくないと思っているので、そこはうまくお願いするという形を取っていただきたいですし、近隣住民の皆さんに我慢を強いるようなことだけはしていただきたくないと思いますので、その点はお願いいたします。
- パークアンドライド駐車場ということで、大和市内の商業施設と相模大野の立体駐車場2か所、確保というふうに書かれていたのですけれども、これはもう確保したという認識でよろしいですか。
- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** その2か所につきましては、繁忙期に利用できる形で確保しているところでございます。

- 宇佐美さやか委員 既に押さえてあるということによろしいですか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 そのとおりでございます。
- 宇佐美さやか委員 あとは、近隣の4駅から離れた駅周辺のコインパーキング、こちらも確保できているという認識でよろしいですか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 こちら提携駐車場という形になりますので、これから具体的にどこの範囲が使えるかとかを提携している会社と協力して調整していくような形になるかと思えます。
- 宇佐美さやか委員 これは確保できたというふうにしたとして、半年間お借りするということになるのでしょうか。どういう約束というふうになるのか、すみませんお伺いします。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 提携駐車場の運用の仕方なのですけれども、提携駐車場は、先ほど村上のほうからも答弁あったのですが、会場の駐車場が満車、パークアンドライド駐車場も満車、その場合はじめて提携駐車場の案内が出てきて、ここが使えますよという形になります。そこで、そこをクリックしていただくと、満車・空車の情報が出てきますんで、そこで空いているところを目がけてお客様のほうに、来場者に行っていただくような形を考えているとでございます。
- 宇佐美さやか委員 すみません、どういうイメージなのか分からなくて。ほかのEXPOに来場される方ではない方が来られて埋まってしまった場合は、そこは案内がされないという、ほかのところが案内されるというイメージでよろしいですか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 おっしゃるとおりでございます、そこありますと、そこは満車と出ますので、ほかの空いている空車のところ目がけて行っていただく形になるかと思えます。
- 宇佐美さやか委員 すみません、私が車を持っていないものですからちょっとイメージが湧かなくて、失礼しました。シャトルバスなのですが、やはりここが心配なのですけれども、運転手の確保というのは、これはもうめどがついたのでしょうか。
- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 シャトルバスの運転手の確保につきましては、提携しています、協会が委託しております旅行会社が手配のほう進めておまして、現時点で約8割ぐらい確保している状況でございます、今月末におおむねめどが立つという形で今調整するところでございます。
- 宇佐美さやか委員 バスがあっても運転手さんがいないんでは動かないので、そちらもしっかりやっていただきたいと思えます。

先ほど来から局長が強調していらっしゃる暑熱対策も本当に必ず必要になると思うのですけれども、もう一個心配なのは、今年のような雨が降らない、少雨で水不足になるという可能性も非常に考えられる中で、飲料水以外の水、例えば花木にお水をやるですとか、お手洗いで流すときの水とか、そういうものをためておくというふうな工夫がされているのかというのを伺います。

- 西岡GREEN×EXPO推進部担当部長 委員御指摘のとおり、我々も環境をテーマとする博覧会ですので、できれば雨水、雨の水とか、そういったものを循環利用できたらいいなというふうには考えています。しかしながら、理想だけではなくて、やはりそこにかかる設備ですとか、あるいは安全性の問題ですとか、ちょっと様々な問題がございますので、その辺を踏まえながら、そういうことができる部分と、どうしても、いわゆる浄水、安全な水を使わざるを得ない部分と、いろいろ出てくると思いますので、今それをいろいろ検討しながらやっているところです。

したがって、全てがそういう形で使えるかというところとそうではないと思うのですが、できる限りそうい

うことが少しでもできるように工夫をしていきたいと考えています。

- **宇佐美さやか委員** 費用はかかるとは思いますが、このEXPOの目的として何を狙っているかというのを示すためには、その費用はやっぱりちゃんとかけていかなきゃいけないと思うのです。当該地区に整備している貯水池あると思うのですけれども、そのたまった雨水を循環できるようなものにできないかなというふうにも思うのですが、その点はいかがでしょう。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 今委員に御指摘をいただいた調整池は、日頃からかなり開発に伴って整備をしている調整池です。したがって、あそこに降った雨が一举に流出して洪水にならないように、一旦貯留をするという目的でかなり大きなものを造っておりますので、その水全部を浄化したり何かの形にして使うというのは、かなり費用対効果もそうですし、大がかりになりますので、それを直接使うというよりも、いわゆるふだん開幕中に降っている雨をためておいてどう使うとか、恐らくそういうほうで、我々は主軸を置きながら検討を進めることになると思います。
- **宇佐美さやか委員** 雨が降ってくればいいのですけれども、降ったら降ったで大変、ためておくという部分、施設が必要というのも理解できるのですけれども、やっぱり循環しているというのが目に見えるですとか、それこそ体感できるとかという施設になることが、このEXPOの持っている、目指しているものなんじゃないかと私は思っています。一部の報道で、ではあるのですが、話が変わってしまうのですけれども、福島第1原発事故の汚染土がその会場の整備に使われるんじゃないかという報道があって、それを危惧している市民の方はおられます。汚染土を使うということを検討されているのか伺います。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、検討はしていません。こちらは、そういうような利用について国のほうでしっかり方針等が出て、そして使うというような話が来てから検討するものでございまして、現在そういう話はございませんので、現時点では検討しておりません。
- **宇佐美さやか委員** 現時点でというふうにおっしゃったのですけれども、やっぱり原発と自然は相入れないもの、共生できないものだと思っていて、自然をテーマとしたこのEXPOにはふさわしくないと思っています。市民の皆さんが危惧、不安の声がある以上は、やはりここは国が言ってきたとしても汚染土は使わないでいただきたいと要望します。

話がわるのですけれども、チケットの販売についてなのですが、局別審査で前売りをいつまでにどれくらい販売するのかという計画がないと伺っているのですけれども、これはもうすごく心配していて、いつまでにどれくらい売上げるのかというのは、やっぱり販売計画決めないと、その後の収支バランスが把握できないんじゃないかと思うのですが、その点はいかがでしょう。

- **五十嵐担当理事** 先日、局別でもお答えをしておりますけれども、おおむね開幕の前までに半数程度を売るということを協会として目標とし、政府、地元経済団体、関係自治体、総力を挙げて今お願い回っているという状況だというふうに理解しております。
- **宇佐美さやか委員** 開幕前まで半数というふうに目標にしていると伺いましたのですけれども、やっぱりこのチケットの売上げが運営費に直接関わってくると認識をしまして、局別でもお願いしておりますけれども、建設費も運営費もこの物価高騰のあおりを受けて当初見込みよりも膨れ上がったという中で、これ以上の増額は無いというふうに局長答弁されたのですけれども、再度の確認ですけれども、建設費と運営費のさらなる増額は無いということよろしいですか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 答弁をさせていただいたとおりでございますけれども、これからの

物価上昇、あるいは労務費の上昇を見込んで建設費も運営費も改定されたと認識しております。したがって、その状況が変わらない限り、増額というものはないと認識しております。

- **宇佐美さやか委員** ならない限りということは、まだ不安定要素が残っているんじゃないかと思ってしまうのですけれども、その点は、やっぱり予算を膨れ上がらせるんじゃないかって、規模ですとか内容を少し縮小するというふうな検討の仕方にしていただきたいと思います。今後どこまでいつまで続くか分からない物価高騰で、本当に様々なものが単価が上がっていますんで、改めて申し上げますけれども、建設費と運営費の増額は許されないとしますので、やはり有料入場者数の目標ですとかを引き下げということを改めて検討していただきたいと思いますので、要望しておきます。
- **久保和弘委員** 何かお伺いしたいと思うのですけれども、その前に、先ほど大屋根リングの輸送についてありましたのですけれども、その輸送費負担というのは本市の負担になるということでありましたが、これは本市の負担になるのですか。協会じゃなくて本市なのですか。
- **谷口GREEN×EXPO推進部担当部長** 大屋根リングにつきましては、大阪の協会と横浜市で譲渡契約を結ぶこととなります。ですので、本市、横浜市の負担になると考えています。
- **久保和弘委員** 分かりました。それなりの費用もかかるかと思えますけれども、大きな視点では環境負荷と収支のバランスという中でしっかりやっていただけたらと思いますし、改めてこの木材を再利用していくというところはいい取組だと思っておりますので、確認させていただきました。  
まず、初めに、こちらの区民活動デーですとか、横浜市のウイークということがございましたけれども、まず、初めに横浜ウイークということを具体的に、これいつどのように開催していくのかということについて確認をさせていただきたいと思います。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** こちらも今制度設計中でございますので、確約的なことはちょっと申し上げられないのですが、できれば、開港ですとか横浜市のいわゆる特別なスペシャルな日とかありますので、そういうところにひもづけた期間で開催したいなと思っております。ただ、それはいつとはまだ決めてはいません。ウイークですので、1週間程度、会場の中でやはり横浜一色になるように会場の中全体を盛り上げるということと、やはり会場外でもそのウイークに行われている大規模イベントですとか、様々なそういった取組と連動させて、会場内外でこのウイークというものをうまく発信し、そして集客につなげていくというようなことを狙って考えているところでございます。
- **久保和弘委員** 今局長がおっしゃったとおり、会場の中でもともとこれを行うということで説明を受けていましたけれども、会場内外でやる、盛り上げていくところはいい取組だと思います。ぜひそこはつなげて、しっかりと取り組んでいただく必要があるかなと思います。

よく言われることに、横浜に来ていただいた方が連泊はなかなかできないということもございますので、やはりしっかりEXPO自体も連泊して見ていただいてもいいかもしれませんけれども、横浜のよくある臨海部等々としっかりとコラボしながら取り組んでいただきたいということもあります。

先ほど資料にも夜間開催の期間についてしっかりと、全期間ですか、取り組んでいくようなこともありましたけれども、やはり以前申し上げたこともあるかもしれませんけれども、ヨルノヨというのが、これまで大体冬にかけてやってきたかと思うのですけれども、そういうものもしっかりコラボしていくようなことも聞くやに思いますけれども、どのような、夜間全体の期間、開催時間を延長して取り組んでいくというか、そこについてお聞かせいただきたいと思います。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず開場時間を延ばして、夜間まで全期間開園するというのは、これは会場内で暑熱対策も含めまして、やっぱり夏場なんかは夜を楽しんでいただく、そういうことで集客をするということは必要だと考えていますので、そういった意味で、会場内で夜間盛り上げるというのが一つです。それから先ほど横浜ウイークのところもお話をさしあげましたが、それ以外でも会場内外の連携というのは、開幕期間中、横浜ウイークに限らず様々な形で展開していかなきゃいけないと考えております。そういった中で、ヨルノヨですとか、そういった象徴的な取組とは連携をして、そして進めていきたいと考えています。

○ **久保和弘委員** そこについてはしっかりお願いしておきたいと思います。

もう一つ、区民活動デーの話に戻るのですけれども、私は地元瀬谷区の選出議員でありますので、やはり区民の方の声をそれなりに聞くことが多くございまして、例えば入場料チケットについてもインセンティブがないとか、例えばもうちょっと区民割がないとかいろいろな声もあるのですけれども、その上で、この区民活動デーということで、具体的にどのようなことをやっていくというようなこととか、瀬谷区、旭区、地元の方というのは、それなりのこの開催に向けて負担もなさっているというようなことも、御迷惑かかっている部分もあるやに思いますので、また開催中にもそういうことも多少あろうかと思えます。

そういう中で、瀬谷区の人たち、また旭区の人たちが、自分たちの町で開催されているというこういう万博を期待する一方で、何かメリットがないのかという声もあるのですけれども、この区民活動デーなどを通してそういうこともできないかなんて思うのですけれども、それを考えというのはあるんでしょうか。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、インセンティブの考え方の軸となるのは、やはり区民の皆様方に御参加をいただく、そして特産品ですとか、先ほども申し上げましたが、文化活動、あるいは環境活動の紹介ですとか、様々な形で関わっていただくと、それを融合させた形で将来の新たなグリーン社会にみんなで取り組んでいくのだということにつながればいいなと考えて、これから制度設計をいたします。そこが軸でございまして、その活動される方々の入場につきましては、どうするかというのはこれから検討いたしますけれども、その区民デーに、インセンティブとして、例えばチケットを半額にするですとか、そういうようなところまで我々としては今のところは考えてございません。

○ **久保和弘委員** 現状、チケット割引がなかなか難しいようなこともありましたけれども、そういう声があるということは伝えさせていただきたいと思います。

あと、来場者の輸送についてでございますけれども、何点か確認させていただきたいのですけれども、シャトルバスの発着場所ということで4つの駅がこれまで示されておりますけれども、例えば瀬谷駅ですとか三ツ境駅というのはそれほど、駅前空間が限られているというようなところもございまして、来場者が集中した場合、しっかり人の動線といたしましうか、どういうところに滞留させていくのかということも必要かと思うのですね。今回改めてこのシャトルバスが予約制だと、事前予約制だということが明らかになって、ある程度その辺は読めるようになったかもしれませんけれども、やはりそういう、地域としてそういう声が多数ございます。そこについて、一応確認のため伺っておきたいと思えます。

○ **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 駅前の滞留空間とかを活用して、滞留スペースをつくっていくことはもちろんのことなのですけれども、先ほど委員からも御指摘のとおり、予約制を導入したということ、予約制も、これは駅前空間のスペースによって何時間の枠を取るのか、何時間枠、例えば9時から10時にするのか、9時から9時半にするのか、そういうことをこれから議論していく形になるかと思えます。

あとは、民間の施設の滞留スペースも借りながら、様々な形で滞留空間、円滑にバスに乗れるような空間整備を進めていきたいと思っているところでございます。

- **久保和弘委員** その上で、以前もお伝えしたことかもしれませんが、例えば三ツ境駅の、今回は計画でシャトルバスの乗る場所と降りる場所、乗降場所が示されて、乗る場所と降りる場所がそれぞれ違うというようなこともお伺いしましたけれども、降りる場所のほうですね、そちらのほうが市営の楽老ハイツ住宅というのがあって、その道路の前かと思うのですがけれども、あそこは結構いろいろごちゃごちゃしているのです。ああいうところの木材、いわゆる街路樹を整えとか、結構足元も街路樹の植栽ますがあったりとか、そういうところも、やはりしっかりこの機に整備していく必要があるんじゃないかと思います。

もう一つ瀬谷駅についても、あそこは乗降場所がバリアフリー化されていないのです。バスの段差があるのです。そこについても、繰り返しこれまで言ってきたと思うのですがけれども、そこに対して何か対策を取っていくんでしょうか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** まず三ツ境駅のほうにつきましては、確かに降りる場所につきまして、自転車置場があったりですか植栽があったりとか錯綜している部分がございますので、三ツ境駅につきましては、自転車置場につきましては道路局と調整しまして、少し再編をしていきたいと思っているところでございます。あと植栽の関係も、スムーズに皆さんが、来場される方、ふだん利用されている方が円滑に利用できるように植栽の関係も整備して、併せて再整備していきたいと思っているところでございます。

瀬谷駅のバリアフリーの段差につきましても、ちょっと今引き続き検討中という形で検討しているところでございますので、まとまった段階でお知らせできればと思っているところでございます。

- **久保和弘委員** そこについてはしっかりやっていただくよう要望しておきたいと思います。

あと2点だけ伺います。いわゆる車、生活道路に対する流入について、ちょっと改めてなのですがけれども、例えば、私自身も知らない都市に行くときによくある、実際はGoogleマップですとか、ヤフーさんですとか、そういうマップを使うことがあって、意外に細かいところに、こんなところ二度と通らないだろうというような生活道路を実際御案内して下さります。そういう中で、知らない土地を快適に私も行ったりすることはありますけれども、そういうところにも、考えますと、ちょっと生活道路にナビゲーションしないような働きかけとか、そういうようなこともやっていくことも必要かもしれませんし、それを含めまして、やはり地元の方が、ちょっと開催が近づいてくるとその話も頂くのですね。ということのお考えをちょっと伺っておきたいと思います。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** まず生活道路対策につきましては、基本的には看板を設置しまして、ガードも配置するという形で流入対策のほうを行っていききたいということを考えているところでございます。また、委員御指摘のとおり、車利用されている方はそういうナビゲーションとかそういう形を利用することが多くなってきておりますので、そういう会社にも今接触のほうをしております、何とかGREEN×EXPOに協力していただく方については迂回できないかというような案内ができないかということは今調整しているところでございます。

- **久保和弘委員** そこについてはしっかりやっていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

もう一つは、町田市とか他都市が隣接しております。例えば、先ほどのシャトルバスの話でいきますと、発着場の一つに南町田グランベリーパーク駅というのがございます。そういう中で、町田の方も、実は、ちょっと私どもも生活している中で、やはり影響があるんじゃないかという御心配の声はあるのです。そう

いう中で、来場輸送実施計画の第2版も拝見いたしましたけれども、他都市との連携、とりわけ町田市の、いわゆる住民の方々にできるだけ御迷惑かけないような取組とか、あるいははっきり発着拠点から交通渋滞を招かないような取組とか、そういうようなことをしっかりやっていくことも必要かと思っておりますけれども、その辺現状はどうなっているのか、最後に確認させていただきたいと思っております。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 今回横浜市内で行われる博覧会なのですが、当然横浜市外の方にも影響が少なくなるようにすることが極めて重要だと思っております。バスの発着など地元の皆様に対しては協会と地元自治体が連携して説明しております、南町田グランベリーパーク周辺につきましては、協会と町田市さんのほうで連携して取り組まれているという形で認識しております。

本市としましても、隣接自治体と連携していくことが重要と考えておりますので、町田市さんとはTDMの円滑化推進会議にも町田市さんは委員に入っておりますので、そういう形で意見交換できますし、そういうことを、来場者輸送につきましても所管部署の連携を深めているところでございます。協会も含めまして、関係者がしっかりと連携しながら地域の生活になるべく影響が出ないよう輸送体系を構築できるように、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

- **久保和弘委員** 開催地である横浜市と、また隣接の御協力いただく町田市と大和市とともにウィン・ウィンで、やはり公開してよかったというような取組をできればと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。以上になります。

- **花上喜代志委員** 横浜市がこの国際イベントを開催する年になったということで、GREEN×EXPOを成功させるために横浜市というのは相当大きな役割を担うことになって、さて、どれほど横浜市が力を発揮することができるのかというふうに注目しておりましたが、毎回この委員会で説明を受けると、どんどん具体的な取組が明らかになってきたと。最初は、国際園芸博覧会を横浜でやることになったというけれども、ほとんど知られていない、話題も全く出なかった、そういう状態だったと思っておりますけれども、今、格段に変わってきたと思っておりますよ。

皆さんもこのバッジをつけていますけれども、これを見た方々が花上さんそのバッジ何って、GREEN×EXPOだよと言うと、そのバッジなのと、どこで買えるのというような、そういう話題が横浜市内に出てきたというのは大きな変化だと思うのです。

まず局長として、これまで準備をずっと取組やってこられましたけれども、どんな感想を持ちか、この辺について聞かせてください。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、ちょっと振り返りからいきますと、やはり今花上委員がおっしゃったとおり、どういう博覧会をしていくのかを手探りで進め始めたのと、そして、まさしく一つずつ積み上げてきて、会場の中だけじゃなくて輸送のこと、あるいは周辺住民の方々のこと、様々な角度から検討を進めてきているということでございます。しかしながら、開幕あと1年を迎えて、まだまだ詰めていかなきゃいけないところもございまして、また幾ら計画を立ててもそれどおりいかないこともございまして、様々なシミュレーションをしていかなきゃいけない、そして開幕を迎えなきゃいけないということで、山ほどやらなきゃいけない取組はまだまだあるなという認識でございまして。

しかしながら、横浜市はホストシティですので、成功に向けて最後まで力強く進めていきたいと、そのように考えています。

- **花上喜代志委員** 先ほど略称の話がありましたが、横浜グリーンエクスポという名称になりましたが、大

阪の万博は、大阪・関西万博というネーミングにしましたけれども、横浜単独ではなく、やはり国家イベントということなので、横浜グリーンエクスポに反対じゃないし、それでいいとは思うのだけれども、周辺の都市も巻き込んでいくという意味では、さて神奈川県とか首都圏、そういったところへのアプローチ、具体的に今どんな取組をしているのか、それを聞かせてください。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 広域的な認知度の向上、あるいは来場者の誘致といいますか、非常に大切だと思っています。これは協会が本来担うべき役割ではございますけれども、やはり我々ホストシティとしてその責務を果たすために、我々横浜市が主体となって、具体的には東京事務所の所長たちに依頼をしまして、現在一都三県、埼玉、千葉、そういったところ、あるいは東京都の市町村とかに直接グッズとかを持って、ポスターとかも持ってお伺いし、そしてこういうものがあるのでぜひ一緒に機運を醸成、そして御来場を喚起して欲しいということで、横浜市も汗をかいて日々足を運んで今やっているところでございます。そういった動きをしながら、やはり広域的な機運醸成にもつなげていきたいと考えています。
- **花上喜代志委員** 横浜市役所だけじゃなくて、横浜市の外郭団体なども含めてセールス活動をやっているかなければ、入場者を確保することが難しいだろうと思うのですけれども、横浜市役所を挙げて取組を行うとともに、横浜市に関わるいろいろな団体、そういったところへの働きかけと具体的な協力、そういった点について、今どんな状況になっているのか、それを教えてください。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、この GREEN×EXPO、国際園芸博覧会を立ち上げた当初から、経済界の方々ですとか関係の団体の方々と一緒に盛り上げていこうということで、推進協議会というものが座組としてございます。そして、節目のタイミングでは、そういった方々にも御参加をいただきながらしっかり情報共有をしているのですが、そういった方々と日頃から様々なこういっ情報共有しながら、それぞれ推進していただいているというのが実情です。そういった団体に参加をされている、例えば企業ですとか、そういうようなところが具体的に、自主的にいろいろな機運醸成なんかも進めていただけるような機運が徐々に高まっている状況だと認識しております。
- **花上喜代志委員** やはり成功させるためには、いろいろな団体、企業、そういったところの協力をもらわなきゃならないと思いますけれども、先ほどの答弁で初めて聞きましたが、開幕までに入場者の目標を1000万の半分、500万人、500万枚チケットを売ると、こういうような見通しがあるようなお話ですけれども、それはそういうことでよろしいのですか。
- **五十嵐担当理事** まさに委員御指摘のとおり、開幕の前までに半分ぐらいのチケットを売りたいということで、政府、それから関係自治体、それから協会、横浜市も含まれますけれども、そういう目標を置きながら、しっかり入場券を売る、入場券を売るということは、同時に機運醸成のプロモーションをやることになりますので、そのプロセスを通じて一都三県、それから全国へGREEN×EXPOの知名度を上げていく、そういったことをやっていきたいと聞いております。
- **花上喜代志委員** 500万人、500万枚のチケットを開幕までには売ると、こういう目標で取り組んでいるというけれども、具体的にはどこを、旅行者とかいろいろな関係団体などがあると思いますけれども、どこにどういう形でこの入場券を、チケットを販売する予定なのか、また見通しは具体的にはどういうことになっているのか、それ聞かせてくれますか。
- **五十嵐担当理事** チケットの販売の=チャネル=につきましては、3月19日から恐らく券が販売されると聞いておりますけれども、まずウェブサイトという活用もありますし、今、委員御指摘のように、いわゆる

旅行代理店ですとかその販売の専門チャネルというものもしっかりお使いになるということをお願いしておりますし、また全体としては、経団連様、それから横浜市商工会議所様などの経済団体から各傘下の企業様の方々に、かなりしっかりとしたお願いをしていただいていますし、それから政府関係省庁、また私ども横浜市も通じて各関係の企業団体というところに購入について、あるいは購入の仕方などについてしっかり行脚をお願いをしているところでございます。

まだ具体的にこれくらいの枚数とかということをお願いするような段階にはなっておりませんが、そういった地道な取組と、先ほど申し上げましたプロモーションをしっかりとやりながら、目標に対して前進していくということだと考えております。

- **花上喜代志委員**　そこで、先ほど鴨志田議員が大阪には7回行かれたという話で、私も2回行きましたけれども、大阪の場合はパビリオンが、いろいろなパビリオンが数多くあったので、あそこ見たい、ここ見たいというのはあったと思いますけれども、花と緑、環境をテーマとする横浜グリーンエキスポは、そうした何度も行きたくなるような、そういうイベントにしていける、その工夫がどのように検討されているのか。それで、最初のうちは盛り上がらないのは当たり前のことなのだけれども、大阪もだんだん盛り上がってきましたよね。ミャクミャクなんか最初全然評判がよくなかったのが、後半に来たらぐっと人気が出て、いまだにそれが継続しているという、信じられないような状況ですけれども、そういった大阪などの経験を生かして、横浜の場合は、これから成功に向けて、1年後の成功に向けてどのような戦略を考えているのか。当然国とかほかの自治体とも検討を進めているんでしょうけれども、どうなっていますか

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長**　様々な関係者がいますので、その総意ではないのかもしれませんが、考え方の統一感からしますと、まず我々は3月19日に開幕しますと、気候が変わらなければというところなのですが、桜が開花し、その桜の種類も1種類とかではございませんので、継続的に桜がしっかり咲くという状況をつくっていきたいと思っています。ですので、圧倒的に早い緑、桜、そういったところで、開幕ダッシュで多くの方にわーっと来ていただくということは、これは大阪の教訓も踏まえて、我々のほうではそういうところを目指そうということは共通でございます。

それから、日々の中では、やはりかなり暑い時期が期間中多いですので、先ほどから申しておりますけれども、夜間の魅力ですとか、あるいは暑熱対策、そういったことを通じながらも、やはり市民や企業の皆様方が活動をする、参加をする、そういう状況をつくらないと、やはり多くの方々の来場にもつながらないと思っていますので、そういう状態で環境を感じながら、あるいは環境の行動変容を自分ごと化しながら体験できるような、いわゆるイベントですとか空間、これを協会や国、そして横浜市で連携をしてつくっていく。全てが屋外ではございませんので、当然屋内の部分もございまして、そういった役割をうまく会場内で分担をしながらやりたいと、このように考えています。

- **花上喜代志委員**　鈴木局長、花と緑というテーマがあるんで、担当の局としてはいろいろな提案をしいんじじゃないかと思えますけれども、どんなことを提案しているのか、分かる範囲で教えてもらえればと思います。

- **鈴木みどり環境局長**　特に、全体としてのGREEN×EXPOをどういうふうにつくっていくか、盛り上げていくかという視点もあると思うのですが、我々はその中でも特にこの市民活動フィールド、横浜市としてどういうふうに出展していくのか、市民の方に関わっていただくのかということだと思います。

今委員におっしゃっていただいたような、期間中どういうふうに見せていくのか、最初はどういうふう

迎えるのかということについては、今折居局長からも話がありましたけれども、季節ごとのというのは、いわゆる旬ということだと思います。この192日間というのも、季節がある日本の中でそれぞれ違う色というか景色がありますので、それが一方で課題でもあるのですけれども、大きな魅力につながると考えていますので、我々のフィールドの中でも何度か植え替え等もしながら、いい面をしっかりと見せて、それが楽しみながら、最後は環境のことも考えて続いていくような、そういった機会にしたいと思っております。

○ **花上喜代志委員** 折居局長、やはり目標の入場者を確保しなきゃいけないので、相当な取組、戦略的にやっていかなきゃいけないと思うのです。だから、最初から、今からこのGREEN×EXPOというのは全体的にこうなりますよなんて言ったら、そしたらわくわく感なんていうのがなくなっちゃうから、期間中を通じてだんだん盛り上がっていくと、大阪のああいような雰囲気を持っていくには相当知恵を使わなきゃいけないと思うのですけれども、その戦略的な考え方、今どう思っているのか聞かせてください。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** これはあんまり明かしたくないところでございますけれども、やはり開幕半年ぐらい前ぐらいですか、そのくらいからやはりいろいろなことが徐々に明らかになっていって、多くの方々に興味を持っていただく、そして開幕時にピークの興味を持っていくというのが一つ戦略としてあると思います。ですので、我々も来年の夏ぐらいからだと思うのですが、集中的にいろいろな情報を発信して、いろいろな媒体も使いながらやっていくということがいいだろうと考えています。

そして、開幕をして、あとは、今度は来場者の皆様方とかいろいろな方々が感想をSNSとかを通じて発信をしておりますので、これは、そういった方々が広報マンになると考えていますので、そういった方々からポジティブな発信がされるような取組を継続してやっていくと、これが閉幕まで続くことが成功の鍵ではないかと考えています。

○ **花上喜代志委員** 全くそのとおりだと思うのです。私たち委員会としても、視察に行ったときに、政府の建物でしたか、そこへ行ったときに、経済産業省の幹部の方が、このイベントは後半盛り上がってくるのですよと、そういうふうにおっしゃっていたのですよ。いや、そんなものかなと思って聞いていましたけれども、本当にそのとおりで、後半になったらどんどん入場者の数が増えてきて、最後は25万人を超えたというような結果になったというのは、体験的に経済産業省の人は分かっていたということだろうと思います。

そういう考え方の中で、横浜のこのGREEN×EXPO 目標1000万人、それを超えるような入場者を確保することについては、やっぱり戦略的にも必要だと思いますけれども、横浜単独でやるわけじゃなくて、国も巻き込んで、また外国も巻き込んでやる話なんで、相当いろいろなところに協力を、お願いをして、それで目標を達成すると、こういう取組方が必要だろうと思いますけれども、政府とかほかの自治体とか、そういったところとの今の話というのは、どんなことを検討しているのか、その取組状況を教えてください。

○ **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 総論としては、EXPO協会のほうで今の全体像の広報戦略ですとか、いろいろな運営の仕方を考えています。一部は私も当然伺っているのですが、そこにつきましているいろいろな戦略がございますので、しっかりと協会のほうで今検討しているというのが実態でございます。

○ **花上喜代志委員** さて、そこで具体的なことを聞きたいのですけれども、大阪万博のときも障害者の方がかなり来場していたなというのを目撃しましたけれども、大阪の場合はコンクリートじゃないですか。だから車椅子なんかは動き回るのに不自由はないかと思うのだけれども、GREEN×EXPOはそうじゃない状況の中で、障害者の方々が安心して何度も来場してもらえるような、そういう取組になるのかどうか、その見通しについてはどうでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** そちらにつきましては、しっかりと、いわゆるアクセシビリティガイドラインというものを定めておまして、様々な障害者の方々への対策というものは、もうこういうふうにするのだぞというのを決めてやっています。これは大阪と一緒にです。ですので、しっかりと障害をお持ちの方々も御参加できるような、そういったしつらえ、ハード・ソフト面でしっかり充実していくということで取り組んでいます。
- **花上喜代志委員** 分かりました。それから、大阪の万博の会場で救急車が何回か走っているのを見たのですけれども、やはりあれだけ大勢の方が来れば体調を壊すような人、あるいははげがをするような人、そういうのが出るということも考えられるんで、そういった点についての取組なども、もう既にしているのかどうか、分かっていたら教えてください。
- **五十嵐担当理事** 委員御指摘の点は安全で安心な博覧会会場をつくるために、大変重要なことだと理解をしております。既に、博覧会協会のほうで大阪・関西万博の知見も得ながら救護体制計画、例えば会場内の医師の配置、あるいは救護所の配置といったものについて計画を立てておまして、来年度またそれを一層具体化するという動きだと聞いております。
- **花上喜代志委員** そこで、安心・安全のGREEN×EXPOにするための取組、これはしっかり準備していかなくちゃいけないと思うのですが、先週、神奈川県警の人事異動がありましたけれども、県警としてGREEN×EXPOについて、体制づくりに協力してもらえんと思っておりますけれども、その辺りについては何か情報はつかんでおりますでしょうか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 神奈川県警から協会のほうに人的な支援をする方向だということは伺っています。
- **花上喜代志委員** 数多くの方々が登場する、もう今から準備にいろいろな方がおいでになって、それから期間中6か月間に1000万人以上の方々がお見えになるということなんで、防犯対策も非常に重要で、今からその準備をしていかなくちゃいけないので、当然、県警とは連携を密に準備をしていってほしいなと思いますけれども、その心づもりについていかがですか。
- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 開幕を迎え、そして無事に成功裏に終えるためには、やはり安全面ですとか警備面、これは欠かせないと思います。そういった意味で、神奈川県警とは本当に密に連携をして進めていきたいと考えています。
- **花上喜代志委員** お願いします。それから、これだけの大イベントですんで、当然のことながらいろいろなの方々をお招きするという事になっていくと思っておりますけれども、まずは、皇室です。天皇皇后両陛下などをお迎えするイベントだろうと思うのですけれども、そういった点については、今もう内部で検討しているのでしょうか。
- **五十嵐担当理事** 御指摘のように、大阪・関西万博でも皇室の御来訪が複数回見られました。我がほうのGREEN×EXPOについても、当然名誉総裁に秋篠宮皇嗣殿下に御就任をいただいていることもありますし、そういうことを前提に政府を通じて宮内庁関係方面と協議をしていると伺っております。
- **花上喜代志委員** 最後にしますけれども、横浜は住みたいまち、首都圏ナンバーワンに9年連続選ばれた、そういう魅力的なまちということ、それから日本三大夜景に去年選ばれたというようなことで、住みたいまち、行きたいまち横浜と、こういうふうに関東圏百六十数年たちましたが、ペリーが来たときから今日まで、横浜の歴史がこれだけ発展して変わってきたということは、私も市議会議員としては非常に誇りに思う

ような都市になったなと思うのです。

けれども、横浜全体の魅力を、この GREEN×EXPO に来たお客様方によく理解していただくためには、アフターコンベンション、そういったような取組もしっかりしていかなきゃいけないと思うのですけれども、その辺りについてのお考えはいかがでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 現時点で具体的にこういうイベントをやろうとか、こういう検討はまだしていないのですけれども、委員御指摘のとおり、やはりレガシーというものをしっかりつなげていかなきゃいけないと。そのときに、まちづくり、あるいは人々の行動変容、これもレガシーでございますけれども、やはり多くの方々に知っていただいた、来ていただいた、そして魅力的なまちになっていくということをつないでいくという意味でも、GREEN×EXPO のアフターの何かイベント、あるいはそういったレガシーを披露する場、何かそういうものを節目でやっていくことを考えていきたいと思えます。

- **花上喜代志委員** ぜひそういった取組をしっかり進めてもらいたいと思います。特に、上瀬谷においでになったお客様方が、ほかの横浜の魅力ある地域の様々な観光資源だとか、あるいは食事などで、じゃあ中華街行こうとか、みなとみらい行こうとか、いろいろな考え方がありと思うのですけれども、SNSでいろいろな動きを発信してもらえる時代になったんで、GREEN×EXPO にお見えになったお客様が、日々いろいろな魅力を SNS を通じて発信していただく、また、それを見た方々が横浜に行ってみようと、こういうような気持ちになっていただくのも大変大事じゃないですか。

先日臨港パークで、ドリームショーを、違う、ドローンショーを、ドローンイベントを私も見に行きましたけれども、すごいお客さんで、ドローンがぱっと上がったところで、すごい、すばらしいって感動の声があちこちから聞こえましたよ。だから、そういうものだろうと思うので、やっぱり横浜でいろいろな魅力をこの GREEN×EXPO を通じて大きく日本国内、世界各国に発信していくと、こういう考え方ってすごく大事じゃないかと思うのですけれども、最後にそれについてのお考えを聞かせてください。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 横浜市民のみならず、国内外の多くの方々に横浜の魅力をお伝えし、共感をいただくというのは、これからの市政にとっても非常に重要だと思いますので、この EXPO の機会を活用しまして、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

- **花上喜代志委員** お願いします。

- **大桑正貴委員長** では、まだ議題も残っておりますが、議論が2時間近くとなっておりますので、この際ここでトイレ休憩としたいと思います。

暫時休憩といたします。

休憩時刻 午前11時57分



再開時刻 午後0時4分

- **大桑正貴委員長** それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

質疑を続行いたします。

- **市来栄美子委員** まず、横浜グリーンエクスポの略称です。エクスポですね。略称ということで、追加ということで大変うれしく思います。大成功させていきたいと思っています。ありがとうございます。

今までの過去の万博ですとか博覧会ですとかで成功した例などを考えて、調べてみましたところ、ランドマークが分かりやすいこと、交通アクセスがいいこと、市民参加型であることが重要であるというふうにあ

りました。先ほどの他委員からもありましたように、目玉となるもの、ランドマークが何かシンボルとなるモニュメントのようなものが必要と考えますが、先ほどの両局長の御回答ですと、今検討中というところだったと思います。展望タワーですとか SATOYAMA Village の風景とか、大屋根リングの再活用とか、いろいろなことを考えてらっしゃると思うのですが、先ほど局長からの冒頭での御説明にございましたように、今回は米軍基地からの返還という意義があるとも思っております。

そこで、米軍の基地から平和的な土地利用、平和への象徴になるようなシンボルやモニュメント、展望タワーや大きい壁画などのアートの作品などを立ててはいかがかなと思います。例えば、沖縄での米軍で軍核ミサイル基地を平和に変えるということで、文化施設へと転換したというような先行事例がありまして、発想の転換で非常にすばらしいと思いました。横浜から、今、昨今の紛争、戦争が起こり、時代が逆行しているような状況の中で、我が横浜から世界へ向けての平和へ向けたメッセージを送れるようないい機会になればと考えますが、この点についてはどのようにお考えでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず横浜市の建物を活用した発信拠点の中で、今そういったモニュメントになるようなものも検討はしているところなのですが、そのモニュメントのコンセプトとしては、やはり市民や企業の皆様方が参加をしてつくり上げるようなもの、そしてそれは多くの方々参加をして、そしてそこにいろいろメッセージ性を込めて発信をするということで、いわゆる平和の象徴というところにつながるんじゃないかと考えていまして、平和館みたいなそういうものではなくて、そういった今回の市民や企業の皆さんの参加を通じてできるものを、そういった平和の象徴として発信できればいいなと考えているところでございます。

- **市来栄美子委員** 御回答ありがとうございます。しっかりと進めていただければと思います。何点かございまして、次に、先ほど言いました3つの観点からですと、市民の参加型にするということが非常に大事になってくると思っております。大阪の万博のほうに視察させていただきましたときに、人数の構成、参加人数の内訳を見ますと、50〜70で地元近郊の住民、20〜40で国内の観光客、海外からが55%〜10%ぐらいの割合であったかと思っております。圧倒的に地元近郊の住民をどういうふうに参加型に巻き込んでいけるかということが非常に成功の鍵になってくると考えております。地元住民のリピーターが多い状況にさせるためには、やはり市民の参加型になるプロジェクトの仕組みづくりを創出していくことが大切と考えております。

一方で、他委員からも御意見ございましたように、GX、グリーンTRANSフォーメーションが分かりにくいと、市民から見ると分かりにくいというお声もあります。何が変わる、TRANSフォーメーション、英語のTRANSフォーメーションは、TRANSが全くあったものが変わって、全く違うものになる、青虫からバタフライ、チョウチョウさんになるということです。TRANSフォーメーションの語源は全く違うものになるということだと思っております。今回の万博を通して何が変わるのか、自分の生活をどう改善していくのか、変化させていくのが分かりにくくなる。

もう少し具体的に市民にメッセージを送るとしたら、再生可能エネルギーの体験ですとか、都市の緑化の活動を体験できる、また脱炭素のライフスタイルを自分で体験できるなどの具体的な体験型のプログラムが不足すると、このテーマがぼやけてしまったり自分ごとではあなくなってくる、行動変容につながっていかないというところがあると思うのですね。

なので、先日2月27日のアトリウム1階でSDGsの促進をしている企業様からのプレゼンやパネル

ディスカッションがありました。その中で、食のサーキュラー、例えば生ごみの残渣を有機肥料に変えて、それによって花を咲かせるような取組をしている企業さんたちもありました。こういった子供たちがリピーターになる、早い段階にインボルブさせて、コミットさせて、本市にはよこはま子ども国際平和プログラムで、ニューヨーク国連本部へピースメッセンジャーを送り出すというすばらしい取組をしておりますけれども、教育委員会のほうで、ここで体験したこういった取組を、ニューヨークの国連本部で英語でプレゼンするなどして横浜をアピールさせていく、横浜のブランド力をアピールさせていくなどの教育委員会などと他局との連携も、横浜らしい取組にしていくには重要ではないのかなと考えますけれども、この辺はどのようにお考えでしょうか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず、最初に委員に御指摘いただきました、いわゆるただ伝えるだけでは分かりにくくて、体験、体感をしていただきながら自分事化するというのは、非常にそのとおりでと考えています。我々の横浜市出展につきましても、体験、体感型の出展を今目指してコンテンツを詰め込もうとしていますので、まずは、そこは合致しています。

それから、子供たちの参加なのですが、これは将来を担う子供たちの参加というのは非常に重要視しております。そして、これはただ単にGREEN×EXPOに来てもらうだけではなくて、事前学習、事前準備の段階から関わっていただきます。例えば、まさしく学校給食の残渣を堆肥にするとか、そういったところから学校単位で準備をしていただいて、それを実際に現地で花やそういったものの肥料として活用して、そして開幕を迎えるだとか、今そういう事前学習、事前の参加から期間中の参加という形でいろいろ教育委員会とも連携をしながら、今もう既に一部企業様と学校様が連携をして、そういった話合いが一部始まっておりますので、これからどんどん加速させていきたいと思っております。

- **市来栄美子委員** 新しい取組なので楽しみにしております。また、そういった目線でいきますと、早い段階から市民や子供たち、学生、若者を巻き込んでいくことが大切でありまして、そうしますと、15 ページの未来を担う子供たちに向けた取組も大切になってくると思うのですが、イです、子供の招待に関しまして、令和8年9月頃の予定ということで、もう終わりの頃になってしまうと、先ほど他委員からもございましたように――、違う、今年のか。かしこまりました。早い段階で呼べるというところで間違いないです。大変失礼いたしました。大丈夫です。

- **大桑正貴委員長** 続けてよろしいです。

- **市来栄美子委員** はい。非常に今回の未来のプロジェクト、また 13 ページの区民活動デーというところが、多くの市民を巻き込む、来場者としてリピーターになっていただくという面では非常に重要になってくると思いますので、しっかりと今後も取組を進めていただければというふうに要望して質問を終わります。ありがとうございました。

- **こがゆ康弘委員** 御説明ありがとうございます。何点かございますので答弁は端的にお願いします。

まず、1番の横浜市の取組の中で、フィールドを活用した活動拠点のコンセプト及び構成というのがあります。これ、全体の地図を見ますと、場所的に入り口からかなり遠いところなのですね。ですから、ここに足を運んでいただくためには、やはりそれなりの魅力、やっぱりあそこに行ってみようよというところが必要だと思うのですが、こちらに足を向けていただくための魅力をどのように考えているのかが一つ。

それと、続けてですが、ウエルカムガーデンでは、いろいろなお花が多分迎え入れてくれるのだと思うのですが、季節によっていろいろな花が違いますよね。ですから、この辺やっぱり行ったときに咲いていると

いう状況をつくらなきゃいけないので、その辺はどう考えているのか伺います。

- **鈴木みどり環境局長** 確かにこの広い会場内で入り口から最も奥まった SATOYAMA Village の中に位置しております。少し斜面があるところで、この会場内では最も高いというか、そんな高く、高さはすごく高いってわけじゃないのですけれども、斜面がある中では一番高いようなところに位置するものにもなります。ただ、恐らく建物よりは低いところでありますけれども。

そういったところに、今おっしゃっていただいたウエルカムガーデンもしっかりと華やかにつくりながら、季節ごとにというところでは、先ほどもお話し、話題になりましたけれども、それぞれの季節の旬というものも考えながら、植え替えは何度かしていきたいと思っております。それは、市民の方の協力というか、一緒にやりながら、植えるものについても、宿根草というような、これまでの一年草とも違うようなものも含めて、どういう花壇をこれから厳しい環境の中でもつくっていくといいのかということも考えられるような、何よりもまずは楽しいというところから始めたいと思っておりますけれども、そういう仕掛けはつくっていききたいと思えます。

そういった関わる市民の方以外にも、ここに来れば何かプログラムがあるといったときに、様々なプログラムが、毎日違うというところまではいかないかもしれませんが、同じものを続けるのではなくて、季節ごとに変わるようなプログラムがいつもあるというような仕掛けにはしていきたいと考えております。

- **こがゆ康弘委員** 暑熱対策、あと飲食とか、できるのかどうかちょっとよく分かりませんが、やはりそこに行ったらこれがあるよ、横浜市ここで出しているよというものをぜひつくっていただきたいと思えます。

次に、未来を担う子供たちに向けた取組のところ、市民参加の取組の中のページですが、その中に学校招待教育プログラムというのがあります。これ総合の時間を使うということを伺っておりますけれども、市立の小・中学校、高校約 500 校ですから、ほぼ全ての小中高がこちら行くということだと思います。多分、丸一日ぐらいかかっちゃうんじゃないかと思うのですが、時間的に何時ぐらいに生徒が、児童生徒が行くのか、あるいは 53 日間ですから、それで 500 校なんで一日十何校、これ学校が行くということなので、どういう形で、もう自由に見てくださいということになるのか、どういうプログラムをやられるということなのか、もし決まっていたら教えていただきたいのですが。

- **小野 GREEN×EXPO 推進部担当部長** 御質問ありがとうございます。教育プログラムにつきましては、いまだ検討中の段階ではございますけれども、せっかく生徒さんお越しいただきますので、幾つかのパビリオンは御覧いただきたいと考えておまして、そこをどういうふうに進めるのかというのを今協会と検討しております。あと、昼食の場所なども日陰で召し上がっていただきたいので、時間を調整して必ず食べられるようにという調整をしているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** まだ決まっていない部分もあるのかもしれませんが、これは児童生徒合わせて 26 万人って聞いているので、かなり的人数ですから、これをどういうふうにして、教育的なプログラムをやったり入れ込まなきゃいけないので、具体的にはこういう形で行ってくださいという雛形みたいのをつくるのかもしれませんが、ぜひ多くの横浜市の児童生徒が見られるような、あるいは高校生も見られるような、そんな楽しめるような、そんな来場の仕方を考えていただければと思います。

次に、来場者輸送の取組なのですが、こちら第 2 版の公表ということがあって、その中の一部を取り出しているというのが今のあのページだと思うのですが、これが実際の第 2 版になります。これ詳しく読みまし

たけれども、いろいろ本当に大丈夫なのというところがやっぱりまだありまして、特に、これから検討、これから協議という項目も結構たくさんあるのですね。なので、そういうことも含めてなのですが、まず輸送全体を考えると、今エージェントにお願いをするというようなお話になっていると伺っています。どういうエージェントなのかというのがちょっとよく分からないのですが、そのエージェントさんが、例えばシャトルバスについては、必要台数とか運転手さんも全部手配しますということになっていると伺っているのですが、これは、横浜市は、そこに対して何らかの責任を取るものではないということによろしいのですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 今、GREEN×EXPO協会のほうで旅行代理店と契約しておりまして、その担当の者、その者がバスの手配、バスの運転手の確保を行うという形になりますので、横浜市としてこれに関する事について責任を取ることはないと考えております。
- **こがゆ康弘委員** 分かりました。そうすると、今回期間中に必要な台数とか必要な運転手の数というのも出ているということによろしいですか。分かっている。
- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 詳しくは協会のほうでダイヤを組みながら、交代とかも含めて運転手確保等をやっていく形になりますが、おおむねの台数ですとかおおむねの人数というのを把握しておりますので、それを含めて協会のほうで手配しているという状況でございます。
- **こがゆ康弘委員** ぜひ、ただでさえ運転手不足ですから今、どうやって運転手を確保するのか。あとEVバス中心ということなので、EVバスもそんなにたくさんは世に出回っていないんじゃないかと思えますから、どういうふうにして確保するのかということ、ちょっと心配になったんで、お伺いさせていただきました。

あと、この会場なのですけれども、当然ですけれども大阪万博と違って鉄道がないので、95%以上は車両で移動です。来る人の95%以上はバスか、自動車で来るのですね。だから、道路を使って来ますから、この輸送計画の成否というのが、この1000万人、本当に来ていただけるかどうかの非常に肝になるということだと思います。それを勘案してちょっと伺ってまいりたいのですが、まずシャトルバスですけれども、シャトルバスは、今4つの駅から出ることになっていて、繁忙期なんかは1つの駅で1万人とか1万何千人シャトルバスに乗る人が増えるわけですよ。例えば、瀬谷の駅はもともと1日の平均利用客は4万人程度です。それに対して約1万人ぐらい増えるわけですよ。

ですから、45%ぐらい人が増えるということに対して、例えば駅の改札の処理能力だとか、先ほども出ていましたけれども、空地の量だとか、あるいは案内だとか、通常の御利用される方もいらっしゃいますから、そういう方に加えて1万何千人1日増えるわけで、そうすると改札混んじゃって出られないとか、非常に大きな課題になるのですが、その辺の検証も行っているということによろしいですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** これにつきましては、鉄道ワーキングというのがございまして、そのほうでしっかりとピークに何人降りるのかという情報を、協会のほうから鉄道会社に投げかけていまして、さばけるかさばけないのか、そういうことを協議しているところでございます。これらを含めまして、具体的に今、鉄道ワーキングというのは全駅を対象にしていますが、瀬谷につきましては、今後瀬谷駅のワーキング等を設けて議論していきたいと考えているところでございます。
- **こがゆ康弘委員** 三ツ境駅なんかを見ると、2バスだけなのですね。ほかには4バス乗るところがあるのですが、2バスだけでこの処理ができるのかどうか。あと、既存のバス乗り場につくるような形になっているので、既存のバス乗り場を移動させて、2バスとか4バスとかつくるのか、そうすると、やっぱ

り今までのバス路線の方々が停留所というか、乗る場所が変わるということになりますが、そういう考えでよろしいですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 三ツ境駅、瀬谷駅につきましては、既存のバスターミナル、バスの停留所の方たちを移動させていただきまして、バスターミナルを設ける計画でございますので、その辺の案内につきましては、事前に周知するとともに開催期間中につきましては、誘導員をつけて適切にバス乗り場に誘導できるような形を考えていきたいと思っております。
- **こがゆ康弘委員** 地図を見ると、一番いい場所なのですよ、このシャトルバスの乗り場というのは、住民の方々が通常利用されているようなバス乗り場というのがちょっと脇のほうに行ってしまうというのが一つと、あと三ツ境の駅なんかだと、滞留場所、待機場所というのがその中にあるので、もともとあそこはバスがたくさん滞留していますから。それで、1本当たりマックスでやっぱり4分に1本ぐらいでばんばん出すということになるので、そのシミュレーションというのも、一般客がいる中でできているということでもよろしいのでしょうか。
- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 駅の乗り場につきましては、これまでも地元の方たちと意見交換しながらバス停の位置等を決めてきた経緯がございます。シミュレーションにつきましては、今具体的にこれから予約の時間とかを設定した上で、人がどう動けるのか、そういう形を考えた上で今後検討していく形になるかと思えます。
- **こがゆ康弘委員** ちょっと駅によって乗降客数が違うのですが、ちょっとそれで質問なのですが、来街者はどういうルートで行こうかと考えたときに、例えばこのルートが混んでいます、あるいはこの駐車場もいっぱいですが、先ほどちょっと言っていました、その情報を見て、こういうルートで行こう、パークアンドライドにしよう、何しようって決めるわけですが、これタイムリーに来街者、来場者にそういう情報をどうやってお伝えするのですか。
- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 例えば、駐車場につきましては、会場駐車場を予約した場合は、基本的にルートを指定するような形を考えています。このルートで来てくださいと。そうしないと、さっき話がありました生活道路に入ってしまうですとか、そういうことがございますので、まずはそこを周知していきたいと。あとは、それと併せてリアルタイムの交通情報を流しながら、ここの道路混みますよという形を出したりですとか、そういう形を考えていきたいと思っております。
- **こがゆ康弘委員** 大体大阪万博もそうですが、何月何日の何時に入場しますというチケットですよ。それと、シャトルバスも事前予約制なのですよ。駐車場も事前に支払ってくださいという話で。何回転かさせるという話なのですが、入場時間とバスとか駐車場の予約と、それは渋滞したり事故したりってことで、必ずずれる可能性がありますよね。入場自体、入場は10時にしてくださいと、そうしたら、10時にどこかの駐車場だったり、そういうところを予約しとかなきゃいけないってことになるので。あるいはシャトルバスもこの時間に予約しなきゃいけない。それは合わせられるのですか。入場時間と事前予約は。
- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 入場の枠と集約ということがこれから行われていく形になるかと思いますが、それが完全にリンクするわけではないのですが、チケット予約した場合は、どの手法で来るのですかとか、そういう形をアナウンスすることによって、そこで選んでもらって、何時何分の駐車場で予

約するのか、シャトルバスを予約するのか、そういう形をうまく連携するような形を協会のほうで考えていく形になりますので、そこをうまく連携できる形が取れば良いと思っていますところでございます。

- **こがゆ康弘委員** これは難しいですね。交通状態によっても全然変わるし、そのときに、またいきなり行き方変えましょうかということだって当然出てくるわけで、その辺の自由度というのをどういうふうに考えているのかというのは、ちゃんと検証したほうが良いと思います。あと、連休中はもっと混みますから、もっと混むときにどういう対応するのかというのは必ず出てくる話で、その辺も含めて検討していただければと思います。

時間も無いのではしよりますが、あと、バスの次は駐車場、自家用車で来られる方。自家用車で来られる方は駐車場が6500台、そのキャパシティがなくなったらパークアンドライドにしましょうというようなことになるのですけれども、6500台に対して、例えば一番混むときは、自家用車で来られる方は1日3万2000人来るのですよ。3万2000人の人が自家用車で来て、駐車場6500台しかないのです。

これどうするのですかということなのですが、よくよく読むと、1人当たり、1台当たり3人乗りますからという前提なのです。でも、1台3人乗るかどうかなんて分からないし、それで6000台しかない駐車場を回転させるって書いてあるのですけれども、でも、丸一日いたいという人も多分いるはずで、あなたは6時間しか止められませんよということをするれば、もちろん回転するのですが、そういう意味ではそもそもキャパがないのです。なので、パークアンドライドってことになるんでしょうけれども、当然ですけれども会場の近くの駐車場に止めたいのは確かなので、その辺の自家用車で来られる方はどのように周知をするのか、どのように回転をさせる考え方なのか、ちょっと分かれば伺いたいです。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 回転の考え方につきましては、まず繁忙期の車の来場の方法ですけれども、6500台の駐車場があります。あとパークアンドライドがあります。プラス提携駐車場を用意しますと、提携駐車場を用意するという形で考えておりますので、そこで賄っていきたいと考えているのですけれども、回転ということも考えておまして、回転というのは、当日早く帰られる方がいらっしゃいますし、あとバスが、団体バスというのが結構早く帰ったりするのです。そこを一般駐車場に転用するか、そういう形で、当日予約になってしまうかと思いますが、当日そういうところで空きが出れば予約ができて回転させていくという感じで考えているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** 聞いていてもかなり厳しいなと思いますけれども。その日にどうやって判断してということになるので、ここはやっぱり自家用車で来られる方は極力控えてくださいというような話をせざるを得ないかもしれません。

それから、パークアンドライドですけれども、今大和市内の商業施設ってイトーヨーカドーとかイオンモールのところだと思いますが、もともと商業施設なので、これ。相模大野もそうですけれども、もともと商業施設ですから、もともとそこに行く人たちだって止めるので、それ以外に、そこにパークアンドライドというエリアを設けたら、一般の方々そういう商業施設に行かれなくなるとか、若干駅近の場所なので、駅利用者の方も当然使うでしょうし、そういう一般利用の方々との競合というのは起きないということではよろしいのですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 一応、この2つのパークアンドライドにつきましては管理者と調整しておまして、今大和とか相模大野につきましては、使われていない、例えば大和でいくと屋上駐車場が今使われていないらしいのです。その部分をこの繁忙期に活用できないかという形で調整しているところで

ございます。相模大野につきましても、使われていないフロアを使わせてくれないかということで今調整しているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** 使われない、今使っていないところってそんなに多くはない。何百台も止められるようなところなのかどうなのか。これ出ていましたよね、そういえば。ただ、別に駅の近くにパークアンドライドつくる必要はなくて、だだっ広いというか、広い野原の駐車場でもいいわけですよ。そこからピストンでバスで輸送すればいいわけで、駅に近くある必要は、私はないかなと思っています。例えば、地元で何なのですがズーラシアには駐車場幾つかあります。ああいうところをパークアンドライドの起点にして、止めてもらったらそこからずっと会場まで輸送すると。帰りには、せっかくズーラシアに止めているのだから、ズーラシアにちょっと行ってみようかという、その相乗効果も出るわけですよ。そういうところであれば、パークアンドライドとしても非常に有効かなと思うので、そういうことも検討していただきたいと思います。

あと、提携駐車場の話なのですが、近隣の駅の目の前にある提携駐車場を使えますよということにすることなのですが、これも全然違う場所に行っちゃっているところで、この駅使えますって言うてもそこに戻ってということなかなか難しいので、これはちょっとどうかという気はしますけれども、先ほどもお話があったように、駅前の駐車場ですから当然いろいろな人が使うので、そこを8時間とかずっと止め放しということになりますから、そこはちょっとやっぱり提携先というのを考えたほうがいいのかという気はします。

それと、結局どこかの駅前の駐車場に止めて、鉄道で例えば瀬谷まで行って、瀬谷からまたシャトルバスに乗るということになるので、そのシャトルバスみんな予約制なのですよ。駅行きました、それでシャトルバスに乗るまでにまた電車に乗るので、このシャトルバスの予約というのは必要になるのですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** そちら辺の予約のやり方ですとか、提携駐車場使った場合の運用とかにつきましても、協会のほうで検討したところでございますので、今具体的に決まっているところではないという形で御理解いただければと思います。

- **こがゆ康弘委員** これも基本的にシャトルバスは予約ですと言っているのであれば、これも予約にするのですかということ、ちょっとどうなのかなという気はします。

あと保土ヶ谷バイパスとか、もともと環状4号線は物すごく渋滞が激しいところなので、そういう渋滞対策ということをしていろいろやらないと、車で来られる方がどうしても時間読めないということになると思います。ただ、輸送供給拡大対策というのをされていて、道路の拡幅だとかあるいは目黒の交差点の立体交差化だとか。いろいろこれ出ているのです。こういうことをやれば渋滞起きませんよ、だからこういうふうに、先ほどあったように、東名高速道路の入り口のラインを長くするとか、そういう対策あると思います。ちなみにですけれども、この対策はどこが主体で、どこのお金でやるということなのですか。

- **西岡GREEN×EXPO推進部担当部長** 目黒交番前立体交差点とか、あと八王子街道の拡幅等につきましては横浜市の事業でございますので、将来のまちづくりに向けた事業でございますので、横浜市のほうと、国のお金をもらいながらやっているという形でございます。東名高速の加速車線・減速車線の負担につきましては、NEXC O中日本がおおむね主体でやっていくのですが、一部横浜市も負担してやっていく形で考えているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** ここに載っているのですよ、これに。交通対策として。ということは、EXPO用に広げたり、将来的な部分もあるにしたって、第一義的にEXPOで、混雑対策でこういうことをやりますって

言っているわけだから、後ほど資料をちょっと、資料請求させていただきたいのですが、これに関わる費用がどのぐらいで、この輸送供給拡大対策ってたくさんあるのですが。さらに言うと、先ほど駅周辺の再整備、段差を少なくするとかそういうのもありましたよね。それもやっぱり横浜市がお金出してやるわけですよ。

これは、総事業費は417億って、つくるだけ、建設費は、そのうち横浜市負担が今百十何億だと思いますが、それ以外にこういうEXPOをやることでかかるお金というのも結構あって、特にハード面だと、こういう輸送対策というのにかなりお金かけるわけですよ。海軍道路だって4車線に幅広くするとか、そういう全てのことにに対してどのぐらいの総額がかかって、さらにそのうちのどの部分を横浜市が負担することになっているのか、後ほどでいいんで、ちょっと資料をいただきたいのですがよろしいでしょうか。

○ **大桑正貴委員長** はい。では今こがゆ委員より資料要求がございましたので、本件につきましては委員会資料として、資料要求をすることとしたいと思いますが、まず資料として出せますか。

○ **西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長** はい。資料を御用意しております。

○ **大桑正貴委員長** であれば、皆様、資料要求することに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ **大桑正貴委員長** では、御異議ないものと認め、さよう取り扱わせていただきます。

それでは資料は作成でき次第、各委員にお届けするようにお願いいたします。

では、質疑を続けます。

○ **こがゆ康弘委員** これはやっぱり横浜市の税金を使ってこういう対策もするので、建設以外にこういう周辺の部分の整備というのにもどれだけかかるのかというのを、ちょっとチェックをしたいということです。

それと、この第2弾の中には、先ほど言ったように、TDMということを使って交通需要マネジメントをしますと、そうすると、住民の方々、さっきもお話出ましたけれども、あんまり使わないでくださいね。あるいはテレワークとかを使ってあんまり自家用車で走らせないでくださいね。あるいは輸送業者とか物流業者に対してもあまりこの道路使わないでくださいねということをするという話なのですね。

これがないと渋滞対策ができないということなのか、先ほどもありましたけれども、周辺の住民の方々の協力がないと、この交通計画というのは成り立たないということなのか。あまり先ほど我慢を強いるようなことのないようにと言っていました、ここの内容を見るとかなり我慢を強いるような内容なのです。要するに、住民の方々、物流事業者の方々の協力を求めるという内容です。これに対してどう思われているのですか。

○ **西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長** これはあくまで協力をお願いするものでございますし、あと、これ192日間、全日やってくれということでは全くございません。特定の日、混雑が予想される日、例えばゴールデンウィークですとか、会期末とか、そこに目がけて皆さんにちょっと協力できる範囲、例えば、私どもがこの日のこの時間協力できないかをお願いしていく形になりますので、そこをちょっとお願いしていく形になるかと思えます。

企業さんのほうにも、もちろんそれは情報を流した上で、この時間に協力できないかということをおおむね前向きな方向で御理解いただいているという形で認識でございます。

○ **こがゆ康弘委員** やっぱり住んでいる方々、地域の方々に御協力を求めるということになるので、これは、いやそうは言ったって通勤で使うのだからって、なかなか住民の方々が御納得、御理解いただけるかどうか

というのはあります。という意味では、本当にこれ実効性が担保されるのかということがやっぱり重要なので、もう本当に御説明とか御依頼ということを前提とすると思いますが、これがないと輸送計画成り立たないのだというのであれば、もう少しちゃんと考えないと、住民の方々にこういうことをやらないと輸送ができないのですというようなことのないような計画にしてもらえればと思います。

それと、例えば災害が起きて道路が寸断をした、あるいは豪雨が起きた、あるいは大渋滞なんかになっている。そうすると、先ほど言ったように、95%車で移動するわけで、会場に着けません。あるいは、会場に着いた方々が帰れないということになるのですね。大阪万博で一回ありましたけれども。そういう対策も考慮しているということによろしいでしょうか。

- **西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長** 何かあった場合につきましてというか、開催期間中につきましては、交通輸送対策本部というのを現地に置きます。そこでいろいろな情報をつかんだ上で、例えば1本の道路が通行止めになった場合どうするのかということ、これからシミュレーションをいっぱいしていきます。そういう形で、そのシミュレーションを踏まえて、どういう形が最適なのか、その現地の情報も踏まえて開催期間中に判断していく形になるかと思います。
- **こがゆ康弘委員** 分かりました。今お話が出た交通輸送本部というのができるのですが、これは、横浜市は関わるのでしょうか。あるいは交通局も関わるということによろしいですか。
- **西岡 GREEN×EXPO 推進部担当部長** 原則協会のほうが本部設置する形になります。横浜市のほうもリエゾンとかで入る可能性がございますが、今のところ本部自体は協会がつくる形になります。
- **こがゆ康弘委員** 横浜市民にも参加者を含めて周辺の方々いらっしゃいます。道路を含めてやっぱり渋滞するという可能性がかなり高いので、そういう対策というのはぜひやってもらいたいのと、先ほど最初に言いましたが、もうこの交通計画が肝じやないかなというふうになんか本当に思いますんで、この部分についてはぜひ協会等もいろいろ具体的なものを詰めて、第3弾がまた夏までに出るというふうにして書いてありますから、そこにはしっかりと具体的な内容なんかを織り込んでいただければと思います。よろしく願いいたします。

最後にですけれども、先ほどバッジの話があったのですが、グッズ、大阪万博でもグッズが物すごく売れていて、販売が物すごく伸びたのです。これどこで売っているのってやっぱり私も聞かれます、つけていると。そうすると3か所しかないのですよ、売っているところが。これもう少し駅、大阪の場合は新幹線のホームでも売ってましたし、ライセンスとかいろいろあるのかもしれませんが、いろいろところで手に入れられる環境というのをつくるべきじゃないかと思うのです。区民、市民に対しては、区役所で買えるとか、地域ケアプラザ、区民センターで買えるとか。そういう、身近に買えるという環境というのをつくるのも重要だと思うのですが、その辺、どうのお考えですか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まず全国的に増やそうというところにつきましては、協会がいろいろ検討していますので、そこはちょっと私も把握していないのですが、我々横浜市で考えますと、やはり多くの皆様方から、委員方も含めて、各区で販売できないかといった声も頂いています。具体的に調整を今始めています。

それは、各区に売店がそもそもある区とない区がございます、我々の調査ですと、7区は売店があるのですが、それ以外の区には売店が基本的にないという状況、そういう販売をするようなところがない。それで、そういったところは区役所の中ではなくて、そのほかの公共施設、あるいは商業施設、そういうところに御協力いただいて販売ができないかということ、区役所と今意見交換をしたりしながら進めています。そ

して、販売ができそうであるというめどが立ってきたような区もございますので、今いろいろ検討しながら整理をしております。いずれにしても、身近なところで販売がされ、そして、多くの方が身近にそれを購入できるというような環境は前向きに整えていきたいということで、今動いているところでございます。

- **こがゆ康弘委員** よろしく申し上げます。あれ僕買おうと思ったのですが、売り切れていまして、やっぱりグッズって結構人気があるんですね。なので、やはり製造の体制というか、準備の体制もあるでしょうし、売り場もたくさんあれば売れるしPRにもなるしということだと思いますので、その点も含めて、成功に向けて取り組んでいただければと思います。以上です。ありがとうございます。

- **大山しょうじ副委員長** 今最後グッズの話が出ましたけれども、恐らくバッジを買ったりこれ買ったりすると、本当にもう潜在顧客というか、必ず入場してくれる可能性も高いと思いますので、お願いをいたします。

それで、いよいよもう3月19日が近づき、1年前が近づいてということなので、先ほど来、今日の、そもそも示していただいた資料、また各委員とのやり取りからもいろいろな意味で分かって、私自身も少し自分の機運が高まったところもあるので、またその辺の情報の出し方って、やっぱり局長もさっきおっしゃいましたけれども、いろいろちら見せというのかな、あと小出しにしたりとか、あとタイミングとかいろいろ考えていらっしゃって、それを事前に披瀝するのはというのもありながらと思うのですが、ぜひまた効果的な、そうした情報発信をお願いしたいと思います。

それで、3月19日からちょうど桜の季節で、いろいろな継続的に咲くものでスタートダッシュをかけるみたいなお話がありました。また、その際夜間の魅力ということで、ちょっと夜間の魅力という言葉であれだったので、そこをちょっともう少し聞きたかったです。

やっぱり夜間のプログラムの目玉を設けることというのは、多分すごく持っているものはあると思うのですが、やっぱり大阪・関西万博のときに夜の虹のパレードですか、光と噴水のショーとかあったり、あとドローンも夜の9時頃に設定したりとか、あとはまた花火もちょこちょこ上げたりとか、私も、ドローンにしても風でその日はやらないだとか、正面から見たけれども今度は大屋根リングの上から見たいとか。いろいろやっぱり仕方なくもう泊まらないと見られないみたいなのところがあって、やっぱり宿泊してまでこちらのGREEN×EXPOにどう来てもらうかみたいなのところで、にぎわいにもつながりますから、そのところの夜のコンテンツとか、夜桜とか夜のガーデンとか花の見せ方とか、その辺も期するところがあると思うのですが、何とか夜を、何とか目玉を設けるのだというところを、もう少し話せることがあったらお聞きしたいのですが。

- **五十嵐担当理事** 御指摘のとおり、夜の魅力を増やしていくというのは大変重要なコンテンツだと考えておりまして、先ほど少し御説明させていただきましたし、あまりここで御披露するというのもあれなのですが、例えば、かなり大きな壁面のところを使って、著名なデザイナーによるデジタルサイネージ、これはもうここでしか見られないですし、いわゆる花のようないろいろな多彩な色というものを、今その方がお考えいただいていますので、その周辺、あまり言ってしまうとまた場所が分かってしまうのですが、飲食をしながら見られる、それから、それだけではなくて、多くの人たちが歩きながら見られるというような工夫をするということを今、一つ考えています。

それから、先ほど御説明しましたけれども、今国内でやっている花のイルミネーションや夜のナイトショーというのは、大体イルミネーションのLEDのほうでやっているのですが、今回は花に直接、

特殊な花の色を引き出すようなライティングをして、恐らくこれは世界でも最先端になると思いますけれども、それを展望台のところから皆さんが見られるような工夫をする。それから、全体としては、エリアとして暗いところもありますので、影として、影絵のようなものをパフォーマンスやってもらうようなこともありますし、明るさと暗さを組み合わせるようなことで、今いろいろなことをやっています。

いわゆる夜のもは、大きな設備を伴わないものであれば、これから協賛という形でいろいろな企業にも御協力いただけることもありますので、そういった企業の方々と中身を詰めながらということをやっていますので、一つ一つ、今はコアになるものがその2つ見えてきていますし、それに加えていろいろなものを仕込んでいきたいということでやっております。ただ、市街地の中でやるEXPOでございますので、周りの方に対する音だとか匂いだとか、いろいろなものも配慮しなきゃいけないことも事実でございますので、その両方をにらみながらしっかりやっていきたいと考えております。

- **大山しょうじ副委員長** いろいろな仕込みのお話はちょっと今もう少し分かったところもあったんで、また引き続き練り上げて磨いていくのだと思いますけれども、よろしく願いいたします。そのところの大事さというのは共有できているというところはよかったです。

それから、資料のほうに入っていきますけれども、4ページの外観イメージパースとか、9ページのイメージ図という書き方で、これはウエルカムガーデンを出していますけれども、これさっきの自分自身の盛り上がりというところからいうと、4ページは木材を使って、大阪・関西万博でもこういうパビリオンが並んでいて、こういうところ歩いて、みたいなどのイメージもあったり、日本館がそうであったり、木材のぬくもりみたいな、そうしたものを感じられるようなあれなのかなと思ったりして。

ただ、こういうのを出すときって、よくさっきのほどまで出すかという話で、あくまでイメージなのか、どこまでリアルにこれをイメージして今描いて、来年かな、こういう形で出てくるのかということなのですが、この4ページと9ページのイメージパースとこのイメージ図、これはそれぞれどの程度リアルというふうに捉えていいのかというのを、もし言えるようだったらちょっと、イメージを私も膨らませたいんで。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** 非常に表現の仕方が難しいのですが、4ページのイメージは、あくまでこういう外観の建物を目指していますということなのですが、やはり我々もほぼ、細かいところは別ですけれども、もうこのような建物を建てて、そして表現したかったのは、待機列とかありますので、しっかりと暑熱対策で日陰をその前にはつくる、あるいはここにミストみたいなのがちょっとあるのですけれども、そういったものをしっかりやっていきたいという意思をイメージとして表示をしたものでございます。

それから、9ページのほうは鈴木局長のほうから。

- **鈴木みどり環境局長** 9ページも、まさにイメージです。ウエルカムガーデンというふうにタイトルつけておりますけれども、この1万平米1ヘクタールのうちの入り口から入っていくと最も近いところの一角を表しています。春、桜もありますので、春の華やかさとか、こういった淡い感じを出したくてイメージをしております。広さ的にもこれは十分ではありませんし、皆さんが目止めるといって、写真にも撮りたくないようなというか、そういうみんなが注目するようなところにしていきたいということでイメージをつくっておりますので、これに近づくような、あるいはこれ以上の面積を使った壮大なものにはしていきたいと思っております。

- **大山しょうじ副委員長** 4ページのほうは、大阪・関西万博でもこういうところ歩いたなというのがイメージであったり、9ページのほうも、私もちょっと、これ入り口ですよ、入ったとこですよというところ

ここで、横浜の文字があって、よくこういうところで皆さん写真、さっきフォトスポットとおっしゃった、ここで写真撮ってすぐく映える、思い出に残るような場所だと思うので、今の話を聞いて、これはあくまでイメージで、もう少し大きさも含めてちゃんとしたものが出てくる、いいものが出てくるというのが分かったんで、ぜひよろしく願いいたします。

それで、次は6ページの暑熱対策なのですが、これは横浜の出展のところですよ。地図というか配置図があって、オーニング、ひさしとかで日陰をつくるということで分かるのですが、並ばない万博だとか、GREEN×EXPOだとか、その辺のキャッチだとか方針はちょっとあれですが、先ほど来、暑熱対策が出ていますが、大阪・関西万博もかなり後づけでパラソルみたいなのを置いたりとかいろいろやりましたし、敷地が右側で、多分通路も左側にあるのかもしれませんが、どこまでどう並んで、暑熱ができるのかみたいなところが、何人ぐらい並べるといえるのか、ひさしはあるのですみたいなことなのですが、そのひさしの下に実際待てる方というのは、どれぐらいいらっしゃるのかという、並ばせる、並ばせない、予約させるとか、そこも含めてちょっと教えていただけますか。

- 谷口GREEN×EXPO推進部担当部長　まず、予約のシステムにつきましては、今EXPO協会のほうでも検討を進めているところでございます。そういった全体の、協会または会場全体の動きを踏まえて、今後決定していくことになるかと思っております。そういった予約のシステムなどの有無などによっても、待機列の大きさというものが変わってくるということをご想定しております。現在予定しているのが、この画面映っているところと言いますと、左側の左上、オーニングひさしによる日陰づくりと書いてあるところから、黒い線が2本出ていると思います。その上側の黒丸の辺り、この辺りに今100名ほどのお客様にお待ちいただけるような空間を一応今確保しております。植栽とか書いてありますが、この辺りをその規模に応じて外構計画をしていく予定になっています。

また、お待ちいただく待機列につきましては、しっかりとオーニング、またミストなどで、暑熱対策ができるような、そういった計画にしていこうと予定になってございます。

- 大山しょうじ副委員長　アメリカのパビリオンとかフランスのパビリオンの並び方だと全然100人じゃないんであれですし、他方、今おっしゃった一応予約制にして100人程度はここの下で時間が来そうなときに並べるといえるものもあるのだと思うのですが、そんなことをちょっと私が言わなくても、皆さん今後方針を決めていくのだと思いますけれども、ちょっとこの後、通路にどれだけ並んで暑熱できるのかなとかいう課題感を感じていますので、よろしく願いします。

それから12ページで横浜ウイークがあったので、これに関連してなのですが、大阪・関西万博のときにはほぼ毎日でもないですが、各国デーってありましたよね。アメリカ合衆国デーとかオランダデーだとか。それで、それぞれのパビリオンだとかで偉い人が来てやったりだとか、いろいろ工夫をしてやっていたのだと思うのですが、この次のページに区民活動もあったりだとか、あとは花・緑の出店者それぞれ各県、いろいろ茨城県とか岐阜県とか26ページ書いてあったりします。

あと、あわせて、これさっきも近隣自治体とかの話もありましたけれども、例えば川崎市民デーだとか、茨城県民デーだとか、巻き込むというあれですが、そういうのが、ガーデン出していらっしゃる自治体とかをより巻き込む形で、何かそういう名前がついていたら、その市民の方とか県民の方もやっぱり行こうかなって思う人もいるのだと思うのです。それなりのイベントもやればと思うのですが、そうした各県とか市だとか、あるいは国だとか、そうしたところを踏まえた何々デーとかという考え方

というのは今、現時点ではどう考えていますか。

- **折居脱炭素・GREEN×EXPO 推進局長** まずナショナルデーというのがございます。これは参加国が約70としますと、全部がやれば70日間どこかでまず埋まるといいますか、そういうことになります。我々も今横浜ウィークとかこういう形で協会のほうにも申し入れていますし、またこれはちょっと私のまだ情報としてないところかもしれませんが、ないところなのですけれども、多くのほかの自治体ですとか関係者が、もしかしたらそういう特別なスペシャルデーをやりたいということで申し入れているのかもしれませんが。

ですので、192日間という限られた中で、そういうことがどうできるのか、これは全体像、協会のほうでバランスを見ながら、我々も調整をしながら、決めていくということになると思います。

- **大山しょうじ副委員長** ぜひそういういろいろな、国だとか県だとか市だとか、ちょっと自分に近いとか自分事だなどと思ってもらえるような、そうした一緒にできるような取組もしていただければと思います。

最後に、先ほど冒頭に大阪・関西万博の次は横浜の話が出ましたが、それに関連してですけれども、大阪・関西万博のときの来場者で、やはりこれもデータでありますけれども、国内の来場者ですと関西圏で67%で約3分の2で、関東が16%で中部が9%ということで、あとはちょっと2%以下ぐらいがずっと続くのですけれども、さっきも潜在的な来場してくれそうな顧客みたいなあれで、恐らくマーケティングだとか含めて皆さん協会もやっているのだと思うのですが、ミyakミyakの話もあったり、大阪万博ロスだとかミyakミyakロスとかもあったり、いまだにあたりするところもあると思うのですが、いわゆる大阪・関西万博に来られていた人、万博ファンみたいな人というのをGREEN×EXPOへ来てもらう、その取り込みみたいなところのマーケティングと言うのかな、あるいは戦略というのか、そういうのは今どう考えておられますか。

- **五十嵐担当理事** 御指摘の点、大変重要だと思っております。例えば、大阪・関西万博のときは万博おばさんのような方がいらっしゃいましたし、そういったシンボルの方もいいインフルエンサーになっていただくと考えております。そのおば様にも、もう既に博覧会協会のほうで接触していると聞いていますし、またSNS上でそういうコミュニティーサイトがあるというのも聞いていますので、そういったところに博覧会協会として私どものほうのネタを投入しているというようなこともありまして、まさに博覧会好きの方々にこの博覧会をどう見ていただくかということについては、個別、スペシャルな対象者として協会のほうで積極的にアプローチをこれからもかけていくというふうに伺っております。

全体として様々なチャンネルで、先ほどの公共団体の方々も含めてなのですけれども、これから1年前を迎えるところで、大阪・関西も1年前くらいからぐっと盛り上がりましたので、その波をつかむように市としても協会をサポートしながら進んでいきたいと考えております。

- **大山しょうじ副委員長** 分かりました。今の、考えて接触とか動いていただいているところもあるということで、理解はできました。引き続きいろいろ頑張っていただければと思います。以上で結構です。
- **大桑正貴委員長** よろしいですか。
- **大山しょうじ副委員長** 結構です。ありがとうございます。
- **大桑正貴委員長** では、他に御発言もないようですので、本件についてはこの程度にとどめます。

以上で脱炭素・GREEN×EXPO 推進局関係及びみどり環境局関係の審査は終了いたしました。

---

◎ 閉会宣言

○ **大桑正貴委員長** 本日の審査は全て終了いたしましたので、審査委嘱報告書を予算第一特別委員会委員長宛てに提出いたします。

次回の委員会の日程ですが、3月13日金曜日午前10時より委員会室4において開会いたしますので、よろしく申し上げます。

本日の議題は全て終了いたしましたので委員会を閉会いたします。

閉会時刻 午後1時00分

# 速報版